

昭和21年3月30日連合軍最高司令部
に提出された
米 国 教 育 使 節 団 報 告 書
東 京 都 教 育 局
国立国会図書館

FB25

65



禁
複
写



* 0042834000 *

0042834-000

FB25-65

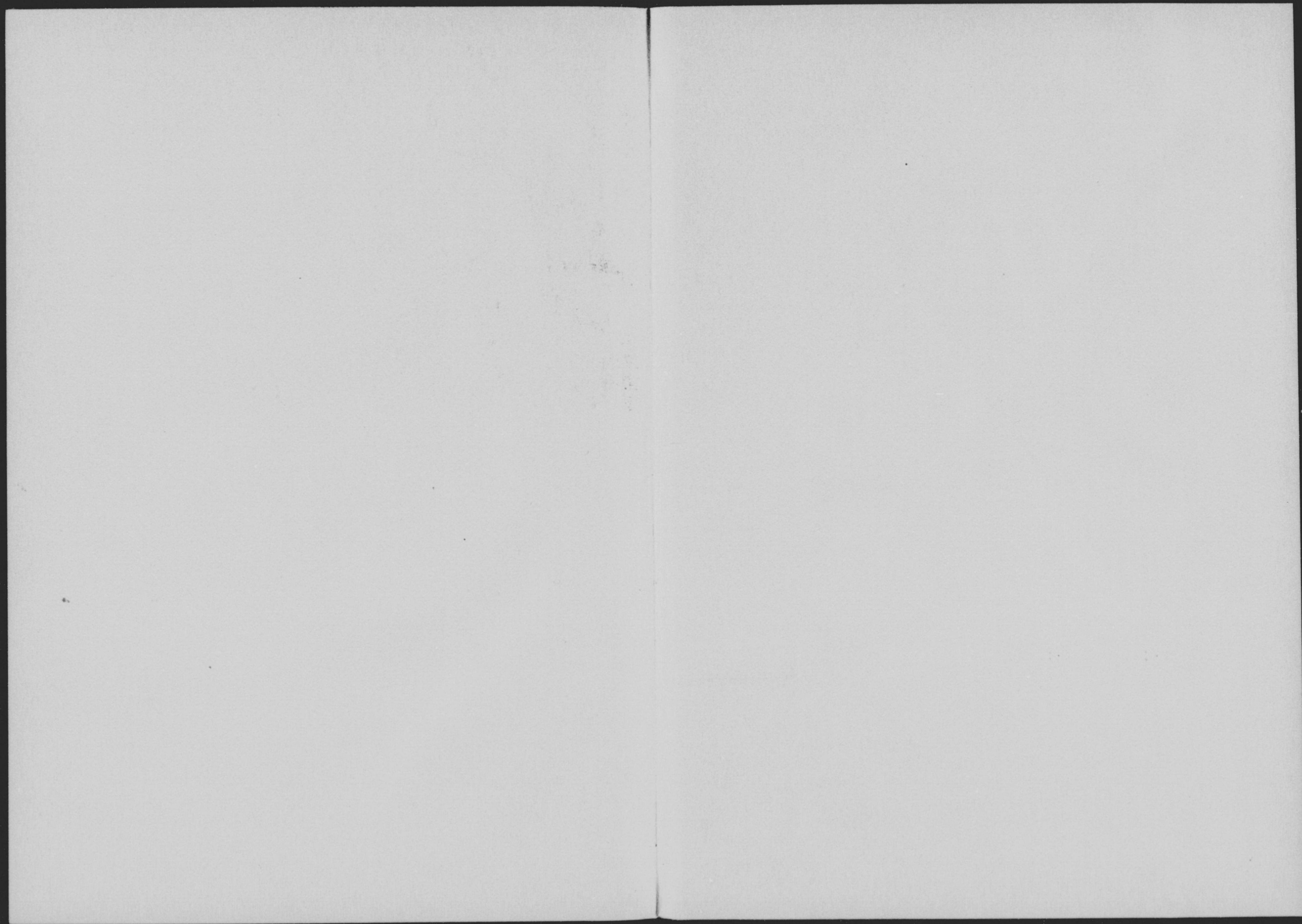
連合軍最高司令部に提出され
たる米 国 教 育 使 節 団 報 告 書

文 部 省 ・ 訳

東 京 都 教 育 局

1946

AHD



H-8X-32

FB25
65

年十月一日

(印刷代勝寫)

昭和二十一年三月三十日

聯合國軍最高司令部に提出されたる

米國教育使節團報告書

(文部省譯)

東京都教育局

FIB 25
65



373.1

998645

日本派遣米國教育使節團

ジョン・エヌ・アンドルウス
 ハロルド・ベンジヤミン
 ゴードン・テイー・ボウルス
 レオン・カルノフスキー
 ウイルソン・コムプトン
 チョーヂ・エス・カウナン
 ロイ・ジエイ・デフェラリ
 チョトチ・ダブリュー・デイーマ
 カミット・イービー
 フランク・エヌ・フリーマン
 ヴァーヂニア・シー・ギルダースリーヴ
 ウィラード・イー・ギヴンス
 アーネスト・オール・ヒルガード
 フレデリック・チー・ホツクワルト

ミルドレット・マカフイー・ホートン
 チャールス・エヌ・ジョンソン
 アイザック・エル・カンドル
 チャールス・エツチ・マツクロイ
 イー・ビー・ノートン
 ティー・ヴィー・スミス
 デイヴィット・ハリソン・ステイヴンス
 ボール・ビー・スチュアート
 アレグザンダー・ジエイ・ストダード
 チョーヂ・デイー・ストダード
 ダブリュー・クラーク・トロウ
 パール・エイ・ワナメーカー
 エミリー・ウツドワード

團長

目次

前	が	き	一
序	論		四
第一章	日本の教育の目的及び内容		一〇
第二章	國語の改革		二六
第三章	初等及び中等學校の教育行政		三三
第四章	教授法と教師養成教育		四〇
第五章	成人教育		五三
第六章	高等教育		六六
本報告の要旨			八一

前　　が

本年一月の初めに聯合國軍最高司令官は、日本の教育に關する諸問題につき總司令部並に日本の教育者達に助言を與へ、かつ協議するために二十名餘りの米國の教育者の一團を約一ヶ月間日本に送つて貰ひたいと陸軍省に要求した。

長期間にわたつて日本を再教育して、その方向を向け直すやうな計畫を立てる責任があるといふことについて、當時ワシントンで論議が交はされてゐたので、陸軍省はその團員の最後的人選を國務省に頼んだ。個人的な資格その他廣い範圍にわたつて種々な點を考へた末、更に總司令部の意向も十分取りいれて、二十七名の一團が選ばれ、チヨロ・デイー・ストダード博士が團長に任命された。

日本に向け出發するに先立ち、委員の大部分の者がワシントンに集つて豫備會議を行つた。こゝで彼等は國務省の職員やその他特殊な知識を有する人々から、過去及び現在の日本に關して、多くの貴重な豫備知識を得た。他の委員達の間でも同じやうな會議が行はれた。また途中ホノルル、でも事情に通じた多くの人々と有益な協議を重ねた。更に一行はグロム滞在中、及びその他の中間協議を通じて、これからやるべき仕事を豫め分析することができた。

一行は二組に分れて、三月五日と六日に空路東京に到着して、日本派遣米國教育使節團を構成した。使節團はその月中日本に滞在した。

最初の十日間に使節團は、民間情報教育部の幹部が計畫した會合を通じて、また使節團の各分科委員會と、それに

對應して文部大臣の任命した日本側教育者達の各委員會との間の協議によつて、又大學、高等専門學校、諸學校及びその他の教育機關の視察によつて、更にあらゆる地位の日本人との幾多の個人的協議によつて、日本の教育制度の組織及び主要な特徴について知ることを得た。

次に使節團はその協議の範圍を擴張し、比較的戦争の被害のなかつた日本の文化的遺産の一部を識るために、三日間にわたつて京都、奈良を訪れた。その外臨時視察旅行は使節團の各分科毎に行はれた。

報告書を提出するに當り、使節團は多くの人々の援助におふところ大なるものがあることを表明したいと思ふ。彼等は餘り數が多すぎて一々名前を擧げることが出来ないが、その援助は非常に有益で忘れることができない。

總司令部民間情報教育部の幹部は、多くの情報を手ぎわよく編成して提供してくれた。彼等はあくまでも根氣よく日本の教育の理論と實際に關する我々の調査に便宜を與へてくれた。

我々と協議するために任命された日本側委員は、喜んで時間をさいてくれた。彼等の援助は非常に貴重であつた。

他に我々と協議した多くの教師行政官並に一般民衆も同様であつた。

要するに我々は、重大事件の變轉に困惑してはゐるものの、次第に現はれてくる自由を用ひて、民主主義的な社會の道具をきたへ上げようと、一心不乱に努力してゐる國民の色とりくの姿を見せてもらつたのである。諸國民の平和な社會において日本が演ずべき新たな役割に應じて新教育方針を達成するためには、その指導者こそ第一に頼りとされなければならないのである。

使節團は、實行に移すべき數々の事がらを、提案してゐることがわかるであらう。これらは大部分、既に日本の教育界に強く現はれてゐる傾向を支持するものである。少數ではあるが、中には教育の組織を根本的に變へなくてはな

らぬ實行方法を、提言してゐるものもある。事をはかどらせるためには、教育者のグループが使節團の残して行つた後を引ついで、できるだけ早く適當な變化をもたらすやう努めなくてはならぬ。

民間情報教育部が、日本の國民と協力してその教育を改革するに當つて、同部の援助を最も効果的にするため、聯合國を代表して専門教育において名望の高い民間人の顧問を、幹部に附屬せしめるやう提案する。彼等は文部省並に學校制度内の他の機關に對して助言を與へるのである。かやうな顧問は、少くも、占領の續く間は用ひられるべきである。新しい日本の教育制度では婦人の地位を十分認めなければならないのであるから、顧問の中には婦人もふくま

れることが望ましい。

都道府縣及び市町村の水準で行はれる教育に、現在よりもつと廣範圍の自治を與へるやう勸めて居るのであるから、聯合國を代表して、民間人の教育顧問か、各都道府縣に任命されるやう提言する。そのやうな顧問は、教育の仕事に専念できる經驗ある教育者でなければならない。

序論

四

米國教育使節團は、元來聯合國軍最高司令官によつて提案されたものである。その來朝は多くの自由主義的な日本の教育者に希望を抱かした。かくて軍の要望と民間の期待とを結んで、我々は歴史的な重大時機に嚴肅な氣持をいだいて來朝したのである。我々は、征服者の精神を持つて來朝したのではなく、すべての人間には、自由を求め更に個人的並に社會的發展を求め、測り知れない力がひそんでゐることを確信する教育経験者として、來朝したのである。

しかし、我々の最大の希望は子供にある。事實彼等は將來といふ重荷を擔つてゐるのであるから、重い過去の遺産に押しつぶされてはならないのである。そこで我々は、誤つた教授をやめるだけではなく、子供達の心情を硬化させることなくその心を啓發するやうに、教師と學校とを準備して、できる限り公平に機會を與へてやりたいと思つてゐる。

この目的のために、我々は日本滞在中、我々に助言を與へるために十分準備のできてゐる人々を求め、かつ彼等から學んだ。我々は、彼等自身教育者であるところの民間情報教育部の米軍係官から、大いに得るところがあつた。我々はまた、日本の文部省の職員から、また種々なレベルの經驗内容をもつ日本の教育者、並に一般人から、殊に使節團に對して特に協力すべく任命された委員會から、入手しうる限りの知識を得た。更に貧弱なものから堂々たる外觀をもつものに至るまで、各種の學校において、我々は教育の計畫のくり擴げられるのを見た。我々は、本使節團が崇

高な目的をもつてゐればこそ許されるやうな、詮索的な態度で訪ね、協議し、視察を行つた。我々は與へられた期間中にあらゆる方法を講じて、國民の生來の精力が再び自由にほとばしり出るやうに、日本のルネッサンスをはむ弾壓力の所在を、探し出さうと努めた。

軍事占領が、自由主義的な日本人指導者の協力と相まつて、既に大體の地均しを終つてゐるのを見て、我々は安心してゐる。日本の戦争意志は、一層優勢な力によつて打ちこはされて、國家神道と武力的侵略の精神は、單刀直入的な指令によつて、學校から根絶されつつある。學科課程と教科書の改訂は、有害なものを教職の中から周到に取りぞく仕事とともに、順調に進んでゐる。

他の基本方針の事がらと同様、これらの事がらにおいても、禁止的處置は、それが自由主義的な日本人の意志を具體化してこそ、はじめて効果的なのである。結局、天降り式の教育は、それを社會のあらゆる水準における責任であり特權であると考へる教育に、道をゆづらねばならない。聯合國が日本人を援助したやうに、他の國民が一國民をその戦争指導者から解放してやることはできるかもしれない、が、結局において國民は、國民自ら自由にならなければならぬ。自由は、自由の實行からのみ生ずるのである。

もしも禁止的指令の必要を認めない人々があるならば、我々は彼等に次のことを思ひ出させてやれると思ふ。即ち新しい教育の下にあつては、日本人は最早してはならぬ事はほとんど無く、むしろ大いにしなくてはならぬ事が何千となくあるといふことである。彈壓の諸條件を除き去ることが、人間の精力を開放することなのである。「人のさまたげになるものを除去すること」が、これが禁止の狙ひである。長い歳月が経つてみれば、それは却つて鎖を解いてやつたものとして、その眞正な姿を認められるであらう。

禁止的處置といふものは、如何に賢明なものであつても、それだけではまだ充分でないといふことを、我々は日本の教育者自身を通じて、はつきり知つた。彼等は、何かしら積極的な指導を我々に求め、かつそれを必要としてゐる。彼等は「自由主義」「デモクラシー」「科學」「ヒューマニズム」等のことばを知つてはゐるが、必ずしもその基本的な意味を感得してゐないし、またこれを完成するための苦しい道をきり開けないかもしれないといふことを、率直に述べてゐる。これらの概念の持つ一層詳細な意義は、先に進むに従つて分つてくるであらうが、今こゝで概括して述べれば、「自由主義」とか「民主政治」とかいふ言葉の意義を明らかにする助けとなるかもしれないと思ふ。さうすることができるといつても差しつかへないと思ふ。何故なら、もしも我々が、日本人の民主主義的可能性に信を置かず、彼等が健全な文化を再建する能力のあることを信じなかつたなら、我々はこの國にやつて來なかつたであらうから。

我々は、すべての種族、すべての國民が、何かしらそれ自身にとつて、また全世界にとつて役立つものを、その文化的資源から創り出す力を持つてゐることを信じてゐる。これが自由主義的信條である。我々は畫一といふことを信奉するものではない。我々は教育者として個人差や、創意や、自發性に對して絶えず心を配つてゐる。これが民主主義の精神である。我々は我が國の制度をうへばかり眞似たものを見せられて、いゝ氣になつたりはしない。進歩發達と社會進化を信すればこそ、希望と、生新な力の源として世界到るところに存在する種々な文化を歓迎するのである。

教師たると行政官たるとを問はず。教育者といふものゝ職務について、こゝに教訓とすべきことがあるのである。教師の最善の能力は、自由の空氣の中においてのみ十分に現はされる。この空氣をつくり出すことが行政官の仕事な

のであつて、その反對の空氣をつくることではない。子供の持つ測り知れない資質は、自由主義といふ日光の下においてのみ豊かな實を結ぶものである。この自由主義の光を與へることが教師の仕事なのであつて、その反對のものを與へることではない。

我々はあくまで、我々が苦心して考へ出して實行してきたことだけを、日本に勤めたいと思ふ。どれだけのことが禁じられるかといふことよりは、むしろどれだけのことが許されるかといふことを知るのが、當事者すべての責任である。これが自由主義の意味である。この精神のあるところには、民主主義が既に根を下してゐるのであつて、代議政治となるのは、たゞ時と根氣強さだけが必要なのである。

民主政治とは宗旨ではなく、人間の解放された精力が、それによつて極めて多方面に表はされうるやうな、便宜上の手段なのである。民主政治は、如何に立派であつても遠くにある目標ではなく、現に存在するあらゆる自由を普及させてゆく精神として、考へられるのが最もよい。責任こそこの自由の本質をなすものである。義務があればこそ、權利が互ひに相殺し合ふのを防ぐのである。それが與へられるべき權利であらうと、果すべき義務であらうと、平等に扱はれてゐるかどうかの吟味が、民主政治の一番大切な根なのである。

民主主義的な生活の仕方の要素を、多少とも持たない國民は無いし、またさういふ要素をことごとく備へてゐる國民も無い。競技を愛するが故にやるのだが、しかし規則に従つてやる運動家は、かういふ生活の仕方のよい手本である。日本にとつて、運動家よりもつと良い例をあげれば、藝術家が好例を與へてくれる。藝術家はその仕事のためにより仕事をやる、そして外部の力からではなく仕事そのものゝ與へる制約から自己を修養するのである。何世紀の間を通じて日本は、その心髓まで美の感覺にふれた文化を發展させて來たのである。

一國民が現にどんな状態にあらうとも、権利の平等と義務の平等へ到達することはできるものである。國民によつては、自由を以て出發し、程よきの道が現はれてくるまで権利を相たたかかせて、自由が放縱にながれないやうにしながら、平等な公正への道を見出したものもある。日本は、社會的關係を藝術化して、粘り強い家族制度を作り上げたのであるから、同胞愛から平等に達することができるかもしれない。

それに到る道はどうあらうと、民主主義的な徳を通じて統一を達成する國民は、藝術と科學、及びすべての自國の傳統と價値とを、動的に綜合した新しい精神生活を、自らの力で築き上げるであらう。この目的のために、日本にある各種の宗教は、よいものである限り今まで役立つて來たし、今後も續いて役立つであらう。そして反對に悪いものである限り、損失を與へて來たし、今後も損失を與へるであらう。消極的には、日本の新しい精神生活は、過激な國家主義が宗教に假託して權利を行使するのを否定することによつて、既に進められた。積極的には、宗教的な思想とその自由に實施できるやうになつたので、今や日本人は、彼等のもつ數種の宗教を批判して、彼等の文化に最高の意味を與へるやうな形式の宗教を、採用できるやうになるであらう。

民主政治といつてもその中には、基本法によつて教會と國家とを分離してゐるものもある。これらは宗教も政治も共に、完全な生活にその最善をさし上げるためにさうするのである。正當に考へられた民主政治といふものは、宗教と共通してゐるものを持つと我々は信じてゐる。何となれば民主政治は、精神生活を求めて、すべての人間に共通な同胞愛といふ特色と共に、個々の人間の威嚴と價値とを強調するからである。自由は極端に行はれると、無責任と無秩序と混亂を生ずるものである。しかし、これと等しく人間の精神に致命的な打撃を與へうるものは、個人を息詰るやうな全體の中の無意味な一部にしてしまふ畫一主義である。

様々な事件や理念のはげしい衝突の下において、日本人自身、個人の價値といふものに、もつと充實した意味を持たせようといふ方向に向つてゐる。即ち彼等もまた今日の諸問題に對して、もつと人情味のある態度で接してゆきたいと願つてゐる。と我々は信じてゐる。この願望を充たすことは、その趣意において精神的な新しい生活を日本に與へ、そしてすべての宗教に公平に機會を與へて、それらの寄與を受け入れることになるであらう。

教育の分野においては、これらの新しい方向は、すべての水準における教授と學習の自由を産み出すであらう。機會の均等は、すべての青年男女に開放された、新しい教育組織を創り出すであらう。すべての學生、すべての教師はこの將來の期待に元氣づけられて、何をなすべきか、何を考へるべきか、またどうあるべきかを知るために、上ばかりでなく自分自身の内面をも、周囲をも、ながめるやうになるであらうと思ふ。この點において、學校は當然さうあるべきやうに、専ら全國的な事業の一端を擔ひ、その事業の成功に明らかなる寄與をなすこととならう、學校は有力な協力者として、非文明主義、封建主義、並に軍國主義に對する一大抗爭に加はることとならう。

第一章 日本の教育の目的及び内容

日本の教育におけるカリキュラム、學科課程、教授法、並に教科書の建て直しは、戦前の日本の教育制度に照し合はせて、また自由民主的な政治形態を採用すべき機会が現在日本人に與へられてゐること、照し合はせて考へられるべきである。改正案を考究する前に、教育の實際について、はつきり理解しておくことが大切であつて、これを明かにしておかないと、この案を採用しても好結果を得られさうもないのである。

日本の教育制度は、その組織とカリキュラムの規定とにおいて、たとへ過激な國家主義、軍國主義がその中に注入されなかつたとしても、近代の教育理論に従つて、當然改正されるべきであらう。その制度は、大衆と少數の特權階級とに對して別々な型の教育を用意して、高度に中央集權化された十九世紀の型に基いたものであつた。それは、教授の各水準において、吸収されるべき一定量の知識があるものと斷定し、生徒の能力や關心の相違を無視する傾があつた。その制度は、規定、教科書、試験、視察等によつて、教師が職業上の自由を活用する機会を少くした。どの程度に標準化並に畫一が確保されるかといふことが、能率の尺度であつた。日本の教育を理解するためには、諸規程、規定された學科課程並に文部省若くは地方廳によつて出版された教科書及び教師用参考書を、調査するだけでほとんど足りるであらう。文部省並に地方廳教育課の職員は、學識には如何に富んでゐようとも、教育及び教授に關して、専門的な訓練若くは經驗をほとんど全然持つてゐない。その結果は、社會の各層にひそんでゐる。多くの才幹と能力の一大貯藏所を、ギセイに供してしまつたのである。

忠誠と愛國心が、必ずしもあらゆる國民に望ましくないのでなく、如何にして合理的な代償でそれらを保證するか、問題なのである。絶對的な服従と盲目的な自己ギセイとは、餘りにも高價な代償である。個人の知性は他の物と交換するには餘りにも貴重である。その上、教師も生徒も、畫一をこととする場合には、群衆心理をつくり勝ちである。

かくて多くの點において、日本の教育制度は、現實の世界に適するやうに、その生徒を準備することが出来なかつた。それはこれらの目的が、學ぶもの、側の理解なしに教へこまれたために失敗したのである。かやうな訓練は失敗する時がやつて來るものであつて、さうなつた時には、思想局の創設がよい實例であつたやうに、治療法の方が病氣よりも始末が悪くなる。

狭い範圍から採用され、強固に仕組まれた官僚人に支配される教育制度、功績によつて昇進する機会を少くし、調査研究にはほとんど機会を與へず、また批判を寛容しない教育制度は、進歩の手段を自ら捨ててゐるのである。

不信は不信を産む。文部省はすべての水準にある教師の知性に信を置かぬやうな態度を示したので、そのため文部省の指導力に對する教師側の信頼を失ふやうなことになるつてしまつた。統制された支配が、必ずしも常に統制された心を産むとは限らないといふことは、有りがたいことであつて、日本の教師達は、彼等の意見が本使節團に示された限りにおいては、批判的であり、動搖してをり、そして文部省以外のところに指導を求めてゐる。

この教師の間の不安動搖は、彼等のあわれむべき經濟状態のためばかりではない。それは指導を求め、新日本建設に役立つ機会を求め、眞剣な願望から出てゐるのである。統制と彈壓をうけたにもかかはらず、日本の教育の向ふべき方向を自ら考へて、次第にそれに氣付きつつある教師がある。そのやうな教師は、正しい意味の指導による刺戟

と激動とを期待して待つて居るのである。

このやうな背景においてこそ、教育の目的、カリキュラム、學科課程、教授法、及び教科書等の問題が考へられなくてはならないのである。古い型では、教育は天降り式に組織された。その本質的な特徴は官憲主義であつた。新しい型では、出發點は個人でなければならぬ。そしてこの新しい型は、あらゆる社會的水準において根強い支持のあることを我々は知つたのである。後になつてわかるやうに、これら新舊の制度では、カリキュラムの問題は各々異つた外觀を示してゐる。

教育の目的

日本の教育の建て直しが行はれる前に、民主政體における教育哲學の基礎がぜひとも明かにされなくてはならぬ。「民主主義」といふ言葉を絶えず繰り返したところで、それが内容をそなへてゐなければ無意味である。

民主政治下の生活のための教育制度は、個人の價値と尊嚴を認めることが基になるであらう。それは各人の能力と適性に従つて、教育の機會を與へるやうに組織されるであらう。教授の内容と方法によつて、それは研究の自由と、批判的に分析する能力の訓練とを助成するであらう。それは異つた發展段階にある學生の能力の範圍内で、廣く實際の知識の討論を行ふことを勧めるであらう。學校の仕事が、規定された學校課程と、各科目毎に認定されたたゞ一冊の教科書とに制限されてゐたのでは、これらの目的はとげられやうがない。民主政治における教育の成功は、畫一と標準化とを以てしては測られないのである。

教育は個人を、社會の責任ある協力的成員たらしめるやう準備すべきである。「個人」といふ言葉は、子供にも大

人にも、男にも、女にも、同様にあてはまることも了解されてゐなければならぬ。新日本建設に當つて、個人は自らを労働者として、市民として並に人間として、發展せしめる知識を必要とするであらう。彼等は、社會の組織の種々な面に參加する社會の成員として、自由研究の精神においてその知識を應用することが必要であらう。これはすべて國際聯合憲章並に聯合國教育科學文化聯盟規約の草案に記された基本的原理と一致するものである。

結局中央官廳は教授の内容や方法、または教科書を規定すべきではなく、この領域におけるその活動を概要書、參考書、教授指導書等の出版に限定すべきであるといふことになる。教師がその専門の仕事に對して適當に準備ができさへすれば、教授の内容と方法を、種々な環境にある彼等の生徒の必要と能力並に彼等が將來參加すべき社會に適應せしめることは、教師の自由に委せらるべきである。

日本の教育方針の轉換は、軍國主義的な、過激國家主義的な、及びその他の非難さるべき教授の特徴を、完全に除去するといふ消極的な面のみでなく、新しい計畫案を充實させるやうな、文化の諸面の注意深い評價をふくんでゐる。例へば歴史、倫理、地理、文學、美術、音樂といったやうな科目において、日本と他の諸國との間に協力を増すものでは、どのやうなものを残せるであらうかといふことに考へを及ぼさなければならぬ。

教育は眞空の中では行はれないし、また民衆の文化的過去との關係をすつかり断ち切つてしまふといふことも考へられない。今日のやうな重大な時機においてさへ何等かのつながりがなければならぬ。新しい計畫に力を與へるやうな人道上的觀念、理想として、どういふものが保存の價値があるかを知るために、彼等の文化的傳統を分析することが、日本の教育活動にたづさはるすべての人々に課せられた仕事でなければならぬ。こゝに日本人はその忠誠心と愛國心を合法的に振作する根據を見つくるであらう。「廣く世界に知識を求め」といふ、明治時代の訓令を採用す

ることはよろしいが、しかし、その場合、絶えず新しい要素を加へてゆくことから生ずる二元論を避けるために、價値ある國民文化の意識と照し合はせてこれを探りいれなければならない。

教育の目的についてのこの論議の要旨は、日本の國民文化の保存のためのみならず、その充實のためにも、教授と研究の自由が助成されなければならないといふことにある。事實と神話を現實と空想を區別する能力は、物事を批判的に分析する科學的精神の中に榮える。

このためには兩親、生徒、教師の心を先づ第一に占めてゐた、從來の試験及第一主義を改めなければならぬといふことになる。受験準備に支配されてゐる教育制度は、形式的になり、極りきつた型のものになる。それは服従しておればいいといふ氣持を教師や生徒に起させる。それは研究の自由と、批判的判斷の自由を奪つて、そして社會全體といふよりはむしろ狭い範圍の官僚主義のために、當局者の意のままに操縦されることになる。最後に、この制度は時としては、ごまかしや不正行爲をやらせたり、若しくは健康を害して失敗に終らせたりするやうな、異常な競争心を産み出す。

しかしまた、青年の將來をチャンスの如何によつて左右させないやうな、新しい型の試験を行ふ餘地がある。この問題は一九三一年から一九三八年にわたつて約十ヶ國が参加して討議した國際調査會の主題であつた。試験問題の研究は、批判の機關と教育研究の中心機關との創設を必要とする。もし生徒の能力についての正確な知識を得る必要があるとすれば、できる限りのあらゆる創意工夫が用ひられなければならない。多くの教育再建に對する戦後の計畫において、指導と助言を與へることにこのやうな重要な位置が與へられるといふことは、思ひがけぬ出來事ではなく、すべての人々に平等な教育の機會を與へようとする理想の直接の結果なのである。

教育といふことは、言ふまでもなく學校のみに限られたことではない。家庭、隣組その他の社會的機構は、教育において果すべき夫々の役割を持つてゐる。新しい日本の教育は、有意義な知識をうるために、できるだけ多くの資源と方法とを開拓するやう努むべきである。學習者が教育の過程に能動的に参加するのでなければ、即ち學習者が理解をもつて學ぶのでなければ、教育は、試験が済み次第忘れられる事がらの蓄積に過ぎなくなるのである。

このやうな智的な革命は、しかし、カリキュラム作成の方法と内容の變更を必要とする。

カリキュラム

カリキュラム並に學科課程を立案する現在の方法は、前章に示された目的を達するために工夫されたものでないことは明かである。良い課程は單に知識のために知識を傳へる目的を以て工夫されるはずがない。それは先づ生徒の興味から出發して、生徒にその意味がわかる内容によつて、その興味を擴大充實するものでなければならない。目的に關して述べたことは、カリキュラム並に學科課程の構成についても同様である。即ちある特定の環境にある生徒が出發点でなければならない。中央官廳が生徒の環境や能力を顧りみることなく、あらゆる事情の下に有效であることを保證された、いはば教育の手形のやうなものを發行するならば、前述の原理はふみにじられたことになる。

それならば、カリキュラム並に學科課程を形成する際の、中央官廳即ち文部省の役割はどういふものであるべきであるか。先づ第一に、それは教育の過程が最も良く實施されるやうな状態を、作り出さなくてはならぬと我々は考へる。それは指導と刺戟と激勵の機能を行ふべきである。必要なのは教育官吏の増員ではなく、熟練教師、實地教示者、研究者が必要なのである。教師用參考書を發行することは、それらが指導と參考の性質を持つものであるならば、

續けらるべきである。

カリキュラムと學科課程は、かくして中央官廳と教師の協力行動の結果として生ずるものである。もちろん教育關係官吏も教師も、將來はこのカリキュラム作成の仕事に與るため、何等かの準備教育を受けてゐるやうになることが推定される。過渡期には、優れた指導の下にこのやうな仕事に加はる機会を與へることは、現在勤務中の教師の訓練として、それ自身價值のある方法である。それに異議を唱へる者があれば、多くの教師達は何時でもそれに應答するであらう。既に彼等は特に地方の社會生活と關聯して、教育と教授の心理學的根據を理解しようと求めてゐる。彼等は思ひ違ひをすのであらう、しかしその思ひ違ひから、また同僚との論議から學ぶことは、新しい刺戟的な冒險となるであらう。

教科書

日本の教育に用ひられる教科書は事實上文部省の獨占となつてゐる。小學校用の教科書は文部省に於いて直接これを作成し規定し、中等學校用の教科書はこれを作成せしめて文部省の檢定を受けさせることになつてゐる。調査した範圍では、教師は教科書の作成にも選定にも十分相談に與つてゐない。カリキュラムについて前節に論じた原則が健全な至當なものとなれば、更に教科書の作成並に出版も一般競争に委ねられるべきであるといふ原則が生れてくる。機會さへ與へれば、教師も視學官も教材の工夫と評價とにおいて十分有能であることを示すであらう。多數の努力によつてこそ、新しい秀れた考案を發展せしめる一層良き機會が來るものである。主として經濟的理由により、教科書の選定を全然教師の自由に任せてしまふことはできない。教科書の選定は一定の地域から出た教師の委員會によつて

行はれるべきである。

日本の教育者達のみがよくこの仕事をなしうるのである。他國の教育制度は手引としては役立つかも知れないが、これを盲目的にまねるべきものではない。日本の教育の轉換には、極めて重大な役割を持つ或る教授分野が存在するこれらについて更に具體的に論じて見よう。

修身、倫理

近年の日本の諸學校において教授される修身の課程は、從順なる公民たらしめることをその目的とした。忠義心を通して秩序を保たうとするこの努力は、周知の如く社會の重要な人物に支持されて、非常に効果的であつたので、やがてこの手段は不正な目的と結びついた。このため修身の課程は授業を停止されてゐるのであるが、民主主義的制度も他の制度と同様、その眞の精神に適合しかつこれを永續せしむべき一つの倫理を必要とする。そしてその特有の徳目はこれを教へることができ、従つてこれは他におけると同様學校においても教へられるべきである。然しながら民主主義は價值の多様性を表はすものであるから、民主主義的目的への手段そのものもまた自ら多様である。

ある國々の學校では、必要な徳目訓練を獨立した教科に集中しようとしなが、これは多分にこの自由社會の文化的多様性のためである。教師が十分準備ができてをり、獨立せる心をもち、愛より出たる忠實さをもち、かつ教師一人當りの受持ち生徒数が少くて十分個別的に授業できる場合には、教育上の一々の手段の中に道徳的完全體の精神をふき込んで、そこに自ら倫理的訓練が行はれてゆく傾向をとる。

フランス人はまた別な方向に進んで行つた。日本の傳統はフランス人におふ處が多いので、特別の倫理科を父兄も

生徒も期待してゐるやうである。日本人の現在持つてゐるもの即ち禮儀を以つて修身科をはじめるなら、それでよからう。少くとも日本の一般人は、その形式的な丁寧さで普く世界に知られてゐる。顔を立てる極端な技巧を嘲笑しようとする者でも、如何にすれば人の感情が日常一寸したことから傷つけられないやうにできるかを、知つてゐたいと願ふのはけだし當然である。日本において特に著しい謙讓さへ、それが對手に不快感を懐かせる時にのみ、行き過ぎとなるのである。お辭儀も之を普遍的にするならば、それは民主主義的となるのである。事實、如何なる形式の丁寧さでも、すべての人によりすべての人に對しこれがなされうならば、それは民主主義への道を容易にする。社會機構の一層秀れた原則のため以外には、我々は日本人の禮儀作法を變更させたくないのである。

民主主義的徳徳から生れる政治的作法は、議會的な諸規則、及びこれらの規則によつて行はれるいろいろの慣習の中にみられる。かやうな形式上の手續を経なくては、公の會合を開くことは不可能であり、従つて共通の識見をひき出して、これを共同の行動として結集せしめることも不可能である。これが政治において廣くスポーツマンシップが行はれる所以であり、多数は少数を尊重し少数は多数の支配に従ひ、やがては少数をして多数たらしめぬものである。そこで、男女すべての兒童に、その自由のめ生えを保護するやうな規則を、學校で教へなくてはならぬことになる。彼等は秩序ある意思傳達の技術を訓練される必要がある。この訓練をする一方法は、彼等が順番に司會する集會を開かせることである。更に男生徒も、自國の憲法を辯へながら生長しなくてはならない。何故なら、これをそこで多数者による統治が行はれてゐる制度だからである。彼等はまた他國の憲法についても多少の知識がなくてはならぬ。將來公民となつた時の準備段階として、自分達の國體の役員を決定するのは選舉によるべきである。若しまねることが必要ならば、議會を手本にして、各校に小型議會を作るがよい。

何よりも先づ、生徒達に庶民生活の英雄を知らさなくてはならぬ。さうすれば平和の徳は戦争の惡と同様に人格化される。公民的英雄をたゞへる文學は、カリキュラムの何處に表はれても倫理に役立つのである。

民主主義的公民はその努力を他と共にすべきである。そしてこのことは憲法や高い理想に関する知識を必要とするばかりでなく實際の政治に進んで参加する心を必要とする。婦人達は「善良」なる妻たるためには自身善良であり、「賢明」なる母たるためには自身「賢明」でなければならぬことを知らなくてはならぬ。善良は偏狹からめ生えることはなく、賢明は温室育ちの植物ではない。それは廣い社會的經驗と政治的實際から生長する。

男も女も自由を勝ち得てこれを保持しようとするならば、進んで民主主義のために努力し、かつ協力しなければならぬ。政治は立派なことであつて、恥づべきことではない。政治的行動への無關心こそ恥づべきである。それは悪人をして善人を支配せしめ、従つて全國民をまきぞへにすることを許すことになるからである。投票棄権は道德的怠慢であり、如何に賢明に投票をなすかについて、進んで勉強しないのは許しがたき不正である。不斷の精進こそ自由の代價である。

以上道徳を集合的完全、即ち人と社會との統合の問題として取扱つて來た。しかし道徳はまた個人的完全の問題、即ち人が自己に對する幸福なる關係を意味するものである。人間が能動的動物である以上、このことは先づ第一に自己の仕事に對する満足なる適合でなければならぬ。藝術家はその仕事の中に完全に自らを見出したる個人であつて、生計を營みつつ、同時に満足なる人生を建設しつつあるのである。彼の個人的仕事がその人間としての職業によく一致してゐるが故に、彼はただそれに専念しさへすればよいのである。かやうな藝術家の幸福は、ある技術をもち、自らその腕前を自覺し、そしてそれを楽しんでゐる熟練工や職人が近づきつつある一つの理想を形造るのである。

人とその仕事との間に幸福な関係があるといふ秘密を知ることが、即ち明朗な精神の神秘を發見し、かつ個人的な人格の完成への主要な要素を發見することである。ここに見出される公式は、如何なる民主主義的修身科についても、その内容を暗示してあまりあらう。集産主義による救済に如何に専念してゐようとも、これだけは忘れられたり見失つたりできない眞に大切なものである。政治的、産業的また職業的な如何なる團體も自己の仕事にまるで適合しない人間を獨力で幸福にすることは出来ない。經濟上の因子は重大であるが最高のものではない。何處を見ても幸福なのが當り前だと言へるやうなところはない。富もこれを保證し得ないし、また富の缺如もこれをさまたげ得ない。技術の所有と實行とがこの幸福な生活をうるための最良の公式なのである。

このやうに國民自身が立派な道徳的資産を持つてゐるのだといふことにその眼を向けて、それらのものを教材として用ひるやうに勧めても、また決して非禮ではあるまい。技術をもつてゐるといふことは貴重な倫理的な賢なのである。この點に關しては日本は相當の資産を持つてゐる。人がその仕事の中に自己を表現してゐるところでは、必ず圓滿完全への一つの道徳が引出され、健全な社會の倫理教科書に代る一つの繪畫が見出されるであらう。

日本が實際民主主義的になるのなら、民主主義的な倫理が當然教へられるものと思ふ。我々はたゞそれが平和によつて教へられ、民主主義の方向に向けられさへすれば、その教へ方は日本人に任せておいていいのである。

しかし若しも倫理が單獨な一つの學科として教へられるべきものとすれば、我々は次のことをすすめる。(一)眞の平等に相反しないやうな日本の習慣はできるだけその教材として保存するやう極力努めること。(二)日常互ひに協調し合つてゆく公明正大なスポーツマンシップは、さうした融和が遂げられるやうになつてゐる制度の機構と共に、比較研究されて教へられること。(三)日本に存在する限りのあらゆる種類の仕事と、技術の熟練が運成したあらゆる精

神上の満足とは、カリキュラムの中において推賞せらるべきこと。

歴史及び地理

歴史と地理は通常生徒をして、時間及び空間の中に自らの位置を定めるに役立つやう設けられたものである。即ち歴史と地理は、生徒が歴史の展望、自己の自然的環境の知得、更にその環境とその他の世界との關聯についての認識を發展せしめうる客觀的基礎を、與へるものと考へられてゐる。

日本の歴史は、兩學科の教授に關して、これと相容れない點を強調して來た。その記録されたる歴史は、意識的に神話と混同され、その地理は、保身的に更に宗教的にさへ、自己本位であつた。

歴史科と地理科は、典型的日本のカリキュラムの中で客觀的學科としては非常に軽い位置しか與へられなかつたので、政治的軍國主義的教育に大いなる役割をなしたのであつた。テキストの相次ぐ改訂は國策の線に沿つて來、一九三九年(昭和十四年)最新の改訂版におけるやうな大損傷を受けたのであつた。

學校の教科科目の中から、歴史と地理のテキストが回收されたため、三つの問題が起つてゐる。即ち

- (一) 適當の代行材料の供給。
 - (二) 内容、觀念及び活動の更に大なる民主主義化のため教育過程の轉換。
 - (三) 新たな歴史、地理教材の選定のための適切な基準の確立。
- 目下テキストの回收された分野においては、與へられるべき内容に關して非常に不安定の状態にある。この不安定は一つには軍事占領に關聯して幾多未解決の問題の残つてゐることが原因であり、一つには教師そのもの側におけ

る十分なる手腕の不足のためである。事態は歴史と地理のテキストが單なる改訂ですまされ得ないが故に、極めて重大である。即ち、それは書き直されなくてはならず、しかも従來と異つた歴史觀を以てしなくてはならないからである。それには時日を要する。

テキストの書き直し期間中、採用しうべき臨時の處置として次の如きものが考へられる。

- (一) 一九二六年(大正十五年)版に用ひられたテキスト材料の利用。
 - (二) 指導用としての教師用参考書を急いで調製すること。
 - (三) 中學校以上における社會科學の研究の擴充、特に地方自治體の機構と機能とに重點を置くこと。
 - (四) 諸外國民を取扱つてゐるテキストの翻譯。
 - (五) 客觀的歴史と神話の分離、及び文學として外國神話と共に日本神話の保存。
 - (六) 自國民の業績の實例を生徒に知らせるため旅行の利用。
 - (七) 生徒の作業計畫としての歴史材料の客觀的編輯。
- これらの提案は「間に合はせ」的考案ではあるが、満足すべきテキストや参考書が再び用ひられるやうになつた場合に、棄てられてしまふ必要はない。補助教材として利用しうるのであらう。
- 歴史と地理の方向を完全に向け直すのには、何年もの學問的勞作を必要とするであらう、またそのやうに計畫せらるべきでもある。以下二三の提案を試みる。

歴史及び地理のテキスト編輯の責任は、文部省内にとゞめられるべきものでない。日本の有能なる學者の委員會が設置され、日本歴史の書き直しのための、據所ある客觀的基礎材料を明かにすべきである。かやうな材料は教科書の

作成の基礎を與へるであらう。そしてこの教科書の作成は、本報告書に概説される原則に従つてなされなくてはならぬ。更に委員會は記録保管所の設立、學會の創設、研究發表、中等學校専門學校及び大學における社會科學の研究の擴張等にもたづさはる。

要するにその總目標は、不侵略と平和を盟へる一個の世界的社會の内において、民主主義的日本教育を振興することとでなければならぬ。

保健教育と體育

保健教育と體育は、カリキュラム改革の重要なことを、折よくまた都合よく例證するものである。現今日本に食糧は不足であり、將來も眞に豊富にはならないかも知れない。故に榮養は、知識の源泉としてまた食習慣の基礎として身體の好調子に寄與しうるあらゆるものと關聯して、必ず思慮ある教育者の注意をひくに違ひない。逆に、無益な軍事訓練を支持すべき暇もなければ精力もないはづである。この訓練を迅速に廢棄したため、青少年は當然うくべき健康と體力と娛樂の機會を、とりもどすことができたのである。

故に我々は、教育者が本問題を十分理解しうるやうな、二三の可能な方法を早速概観することにしよう。この場合他の場合と同じく、遠大な計畫を必要とするけれど、健康は多くの個人道徳と社會道徳の出發點であるから、これらの處置の中、比較的明白なものに、大なる優先權を豫約せざるを得ないのである。

保健教育

保健教育は小學校において重大な缺點があるやうに思ふ、そこでは生理も衛生も、實際にはほとんど教へてゐないと同様である。

醫師團體に、學校検診の然るべき標準と方法を、立案するための研究をさせなくてはならぬ。或る種の検査には教師を使用してこれを助けさせることもできよう。醫學校では、學校經營に際して生ずる必要事項を、未來の醫師に知らせるために、短期の校醫指導講座を設置すべきである。醫師、養護、訓導、教師、生徒、父母をもふくめて、連續的検診計畫を立てるべきである。

學校の保健教育には、個人及び家庭の十分な保健實行はいふまでもなく、細菌學、生理學、公衆衛生處置の基本的及び實行上の要旨をも、あわせて教授しなくてはならぬとは、大多數の權威者の同意するところであらう。例へば、榮養の如きはこれを成行に委せてはおけないもので、生徒に判然たる指導と實地教示をなすことを必要とする。

成人の保健教育にもまた留意しなければならぬ。何等この點の教育を受けたことのない多數の成人を援助するため、この面の大學公開講習を助成することは策の得たものであらう。隣組の活用は、やがて論すべき成人教育の他の方面におけると同様に、この方面においても、先づ第一に試みたら面白いと思ふ。各校の保健教育委員會は、關係學科擔當教師の寄與を取りまとめ、彼等の經驗の總和を以て生徒、兩親及び團體員を指導することに寄與しうるであらう。

高等程度の學校にあつては、榮養學、衛生學及び教授法の専門家が、最新資料を作成することに着手すべきである。あらゆる段階の教育を通じて、必ずその必要が直ぐさま起り、しかもまた長く續くに違ひない。努力したかひのある喜びがこれ程豊かにむくいられるところは他にない。健康な兒童は人間の幸福へのこの決定的な領域における一歩一

歩の進歩を、絶えず感動的に思ひ起させるものである。

我々の間よべきところではないが、健康狀態の實質的な改善に伴ひ、逆説的に一大問題が、即ち、日本が高度の出生率を維持しつつ死亡率を低めるに従つて、人口過多になつて行くといふ問題が、益々深刻になるであらう。生物學社會學方面を代表する日本科學者の立派な委員會が、これらの關係を眞面目に研究するやう勸告する。

體 育

身體を強壯にし、調整し、身體的の技術を教授する外に、スポーツマンシップと協力の精神とが有する固有の價値を、學校は認識すべきである。家庭や行き止りの横丁で行つて、しかも身體の調整價値を持つ運動競技を、極力發達せしむべきである。できるならば、これらは男女が共に楽しみうるやうな遊戯に向くやう工夫されるべきで、その施設は高價なるを要しない。

小學校、中等學校、實業學校、專門學校等で體育に充てられた時間は十分豊富である。學生があまり運動もせず長時間勉強する傾きのある大學程度においても、同様の授業を加へなくてはならぬ。現在よりもつと多數の女教師に女子の體育活動を擔當させ、かつその活動計畫を改善する處置を講ずべきである。

何はさておき先づ、體育施設の回復を勤める。

教師から成る委員會で新教師用参考書の起草を企圖し、教師訓練の方法は保健、體育及び休養に關する近代的知識に照らして展開すべきである。そのためには研究の必要がある。

體育諸協會、青年團をふくむ非軍事的競技團を激勵して、再び活動を開始させなくてはならない。

我々は體育の點において日本の前進は可能であると信ずる。その組織には多くの長所があり、その人的要素は西洋諸國にくらべて見劣りがしない。民主主義教育に對する寄與の可能性は正に多大である。

職業教育

日本は、その家屋、都市、工場及び文化施設を再建するために、教養ある頭はもちろん、熟練せる手をも必要とする。日本における民主主義の保證としては一國の熟練せる、職についてゐる、見聞の廣い工員に優るものは無い。彼等は一つの産業的資産であると共に、精神的資産でもある。

かくの如き民主主義の防護者を創設するために、日本の教育者は、精神だけで働く人々に對すると同様に、器具を持つて働く人々に對しても敬意を払ふやうに、國民を誘導しなければならぬ。

創造力と立派な衝動とは學者の獨占物ではないし、また從來もさうではなかつた。故に我々は初等教育においてもまた中等教育においても、社會研究の教案中に工員や労働者の社會的寄與と彼等に關する問題とを強調するやう勤める。十分に訓練された職員の指導の下に、各種の職業的經驗を生徒に與へるべきである。

結論

上に論じた原理を基礎として、カリキュラム、教授法、教科書、その他補助物の使用に關する教育の諸目標を約言することが出来る。

理解力に富み、責任を重んじ、またよく他人と協力する社會の一員として、各個人に男女兒童であらうと、男女成

人であらうと——できる限りの十分な發達をうながすやうな具合に、教育制度を立てるべきである。故に、生徒を健康にし、身體の調子をよくする準備をなすべきである。試験のためにたゞ事實的知識を暗記させるよりは、むしろ自由探究に重きを置くべきである。

その教育制度にはなほ、普通教育の基礎を與へてから、近代社會の幾多の職業——農業、工業、商業及び家事上、並に専門的な業務——に對する特殊化する準備教育に進むにしたがつて、生徒の能力、素質、及び感興に適應した各種の學校または教育機關を、準備するといふ責務がある。教育的でありかつ職業的である、編成よろしきを得た助言指導の組織は、學生を益するところが多いであらう。

最後に、教育制度は、單に知的なだけではなく實際的及び審美的な新しい感興を、學生の間にひき起すやうにするのがよい。新計畫全般にわたつて、自學自修のための圖書館その他の機關が、重要な役割を演ずべきである。實際、教科書や口授教材の暗記を強調しすぎる惡風をのぞく最良法の一つは、種々異つた諸觀點を表はす書籍や論文に、學生を接觸させることである。

以上の提案は皆、如何なる國民たるを問はず、その中における兒童の地位を率直に認識するところから出發する。彼等は率先して事をなすやうに教へられなくてはならぬ。日本の將來は彼等の双肩にかゝる。我々が彼等の心の新道を開くに當つて、熱心に我々の論點を主張したとしても、それは單に、何處の國でも、青年は自分達のために十分に語るべき機會が、ほとんど與へられてゐないからである。

第二章 國語の改革

二八

日本の子供達に對して我々が責任を感じさへしなければ、これに觸れずにおた方が慎み深くもあり、氣樂でもあつていふと思ふ問題に、こゝに當面するのである。言語は國民生活に極めて密接な關係をもつた一つの有機體であるから、外部からそれに近よることは危険なのである。しかしこの密接な關係がまた専ら内部から行はうとする改良をさまたげてゐるのでもある。

何事にも中間の行き方があるが、この場合それは立派な中庸の道になるであらう。國語の改良はどんな方面から刺戟を受けて着手してもいいが、その完成は國內でするより外にないことを、我々は知つてゐる。我々が與へる義務があると感じるのは、この好意の刺戟であつて、それと共に、未來のあらゆる世代の人々が感謝するにちがひないと思はれるこの改良に、直ちに着手するやう現代の人々に大いに勤める次第である。

深い義務の觀念から、そしてたゞそれだけの理由で、我々は日本の國字の徹底的改良を勤めるのである。

國語改良問題は明かに根本的な、急を要するものである。それは小學校から大學に至るまで、教育計畫のほとんどあらゆる部門に、その影を投げかける。この問題を満足に解決できなければ、意見の一致を見た多くの教育目的の達成は、極めて困難になるであらう。例へば、他の諸國民の理解の促進や、自國における民主主義の助成がさまたげられるであらう。

教育過程及び一切の知的成育に言語が決定的な役割を演ずることは、一般世人の認めるところである。それは在學

中及び卒業後もつと學問の重要な素因をなすものである。日本人は、他國人と均しく、言語の音聲的並に書記的記號を思考の手段とする。教育の全過程の質と能率が、これらの記號の性質の如何によつて深甚な影響を受ける。

日本の國字は學習の恐るべき障害になつてゐる。廣く日本語を書くに用ひる漢字の暗記が、生徒に過重の負擔をかけてゐることは、ほとんどすべての有識者の意見の一致するところである。小學校時代を通じて、生徒はたゞ國字の讀方と書き方を學ぶだけの仕事に、大部分の勉強時間を割かななくてはならない。この初期數年の間、廣範圍の有用な語學的及び數學的熟練と、自然界及び人類社會に關する主要なる知識の修得に充てられるべき時間が、この國字習熟の苦しい戦ひのために空費されてゐるのである。

漢字の讀み書きに過大の時間をかけて達成された成績には失望する。

小學校を卒業しても、生徒は民主的公民としての資格は不可缺の語學能力を持つてゐないかも知れない。彼等は日刊新聞や雑誌のやうなありふれたものさへなか／＼讀めないのである。概して、彼等は現代の問題や思想を取扱つた書物の意味をつかむことができない。殊に、彼等は卒業後讀書を以て知能啓發の樂な手段となし得る程度の修得さへでき兼ねるのを常とする。であるからと言つて、日本の學校を參觀したものは、生徒が明敏でまた非常に勉強することを否定しうるものはない一人もない。

公民たる者の基本的義務を立派に果さうとすれば、個人は、社會の出來事に關する簡單な記事の意味を、理解しなければならぬ。各個人はまた學校卒業後、直接自己の運命に影響する條件を、次ぎ次ぎに制壓するに足る普通教育の要點を持たなくてはならぬ。兒童が小學校を卒業する前にさうした事の手ほどきをおかないと、後になつては、自らこれに着手する時間も無し、またする氣にもなれないものである。そして日本の兒童の中、約八十五パーセント

がこの時期に學校教育を済ますのである。

中等學校に入學する十五パーセントの兒童にとつても、依然として國語問題は解決されぬ。これら年上の少年男女は、相變らず國字記號の修得といふ果てしない仕事に骨を折るのである。何れの近代國民に、かやうなむづかしい時間のかゝる表現と傳達の、ぜいたくな手段を用ひる餘裕があるであらうか。

國語改良の必要は、日本においてすでに長い間認められてゐた。著名な學者達がこの問題に多大の注意をはらひ、政論家や新聞雜誌の主幹をふくむ有力者の中には、實行可能な方法を種々研究したものが多し。約三十に上る日本人の團體が、今日この問題に關係してゐるといふことである。大體において、三つの國字改良案が討議されつつある。第一は漢字數の制限を求め、第二は全然漢字を廢止して、ある種の假名を採用することを要求し、第三は漢字も假名も完全に廢棄して、一種のローマ字を採用することを要求する。

これらの諸案の中何れを採るべきかは、容易に決定することができぬ。然し、史實と教育と言語分析とを考へあはせて、使節團は、早晚普通一般の國字においては漢字は全廢され、そしてある音標式表現法が採用されるべきものと信ずる。

かやうな表現法は比較的修得に容易であり、また全學習過程を大いに簡便にするであらう。この表現法によつて、辭書、カタログ、タイプライター、ライノタイプ機、及びその他の言語補助の用法が、簡單になるであらう。更に大切なことには、この表現法によつて日本の大衆は、藝術、哲學、科學、及び技術學上の自國の文書中に存在する知識と知慧に、一層親しみ易くなるであらう。それはまた日本人の外國文學研究を容易ならしめるであらう。

漢字といふものゝ中に存するある審美的その他の價值が、音標法では到底十分に表はせないといふことは容易に認

められる。然し、一般の民衆が國の内外の事がらに良く通じて、はつきり意見が述べられるやうになるべきであるとなれば、もつと簡便な読み書きの手段が與へられなくてはならぬ。

統一された、實施可能な計畫の完成には、時日を要するであらうが、然し今こそ着手の好機であると思ふ。

使節團の判斷では、假名よりもローマ字に長所が多い。更に、それは民主的公民としての資格と國際的理解の助長に適するであらう。

必然的に幾多の困難が伴ふことを認めながら、多くの日本人側のためらひ勝ちな自然の感情に氣付きながら、また提案する變革の重大性を十分承知しながら、しかもなほ我々は敢て以下のことを提案する。

- 一、ある形のローマ字を是非とも一般に採用すること。
- 二、選ぶべき特殊の形のローマ字は、日本の學者、教育權威者、及び政治家より成る委員會がこれを決定すること。
- 三、その委員會は過渡期中、國語改良計畫案を調整する責任を持つこと。
- 四、その委員會は新聞、定期刊行物、書籍その他の文書を通じて、學校や社會生活や國民生活にローマ字を採り入れる計畫と案を立てること。
- 五、その委員會はまた、一層民主主義的な形の口語を完成する方途を講ずること。

六、國字が兒童の學習時間を缺乏させる不斷の原因であることを考へて、委員會を速かに組織すべきこと。餘り遅くならぬ中に、完全な報告と廣範圍の計畫が發表されることを望む。

この大事業を起すために任命される國語委員會は、新しい形體の使用から生ずる學習過程について、豊富な資料を集めるための國立國語研究所にまで、發展するかも知れぬ。かやうな研究所ができれば外國の學者をひきつけること

になるであらう、といふのは、多くの入々は何處にでも直ぐに役立つ有用な着想を、日本の持つ経験の中に發見するのであらうから。

今は國語改良のこの重要處置を講ずる好機である。恐らくこれ程好都合な機會は、今後幾世代の間またとないであらう。日本國民の眼は將來に向けられてゐる。日本人は國內生活においても、國際的關係においても、新しい方向に動きつゝある。そしてこの新しい方向は文書通信の簡單にして效果的な方法を必要とするであらう。また同時に、戦争が多々の外國人を刺戟し、日本の國語と文化を研究せしめてゐる。この感興を持続せしめ、育くまうとすれば、新しい書記法を見出さなくてはならぬ。國語は廣い公道たるべきもので、障壁であつてはならない。

世界に永き平和をもたらさんとする各國の思慮ある男女は、國民的な孤立と排他の精神を支持する言語的支柱は、できる限り打ちこわす必要のあることを知つてゐる。ローマ字採用は、國境をこえて知識や觀念を傳達する上に偉大なる寄與をなすであらう。

第三章 初等及び中等學校の教育行政

教育の基本原理解

國民の奪ふべからざる普遍的な權利は、主として教育の方途によつて保護されるものである。學校は人々の経験を補充し豊富にするために設けられる。個人が一生を通じて順次その最善の自己に到達する結果をもたらすやうな教育が最も望ましい。

我々はくり返して言ふが、民主政治においては、個々の人間は卓絶した價值を持つてゐる。彼等の利益を國家の利益に従屬させてはならない。教育を受ける機會は、個人の能力に應じて、性と、人種と、信條と皮膚の色との如何にかゝわらず、すべての人々に等しく與へられるべきものである。少數の團體も尊敬され、重んぜられなくてはならぬ。

學校はその奉仕する協同體にとつて必要缺くべからざる要素である。カリキュラムを構成する校内の経験は、生徒達の校外の経験と密接な關係を持たせなくてはならぬ。

學校はあらゆる個人を援助して、強烈な個人的、家族的、公民的及び社會的な忠誠心を發展させるべきである。學校は黨派的な影響を與へることなく、研究心の發達を助長すべきである。思考、傳達、及び批判の自由に基いた賢明なる公民資格を以て、教育の一つの重要な成果となすべきである。

基本的變更

三四

日本の學校が民主主義的な平和的な生活方法の進展に、十分な責任を取るものとすれば、學校は多少基本的な諸點を改革する必要があると我々は信ずる。

我々が先づ第一に勸告することは、日本の諸學校に新しい哲學と、新しい方法と、新しい機構とを採り入れることである。このことは、人間の人格を至上の重要性を持つものと認め、國家をその目的達成の手段と認めるやうな方式に基いてなされるべきである。その方向に進む第一歩として、官公立學校において、政治上または宗教上の黨派的な教授を廢止するのがよいと思ふ。

勅語勅諭を儀式に用ひることと御眞影に敬禮するならばは、過去において生徒の思想感情を統制する力強い方法であつて、好戰的國家主義の目的に適つてゐた。かやうな慣例は停止されなくてはならぬ。かやうな手段の使用に係のある儀式は、人格の向上に不適當で、民主主義的日本の學校教育に反するものと我々は考へる。

機構、形式、及び方法の見地から、個々の學校と學校制度は中央集權的管轄を受けるものと、地方分權的管轄を受けるものとに分れる。集權式の學校制度にあつては、權威は一人の人、一個の制度、または一個の機關から出る。集權式制度は、制度の内外の權力者にごまかされたり、利己的に利用されたりする危険が比較的多いことは、經驗の示すところである。日本の學校制度は從來しばしば批判的になつた。全制度を通じて色々な點で重要な地位は、教育者として職業的訓練を受けたことのない人々が占めてゐたからである。多くの教育關係職員が、内務大臣またはその代表によつて任命されたそれに対して責任を負ふことになつてゐる。

のである。

この管轄問題について、我々は日本の教育制度に二つの改革をすゝめる。

第一に、教授、教授監督、または行政に關して學校と交渉をもつ職員は、教育者たるに充分の資格をもたなくてはならぬ、そして、教育組織の一部として設けられた人または機關に與へられてゐる機能によつてその地位に任命されるべきものである。

第二に教授計畫の管轄を現在よりもつと分散させなくてはならぬ。全機構の一定の段階において、權力と責任の縦の線を、明確に切斷しなければならぬ。

必要なる調整

初等程度の學校では、修業年限が從來多少不定であつた。小學校の修業年限は六ヶ年に定むべきであると我々は信ずる。この六年間に、少年少女は兒童期を過ぎて青年期の初めに達する。六ヶ年の小學校は、學校は全く無料にし、そして義務教育とすべきである。授業料は全然徴收してはならない。その教育計畫は、生來の能力を熱心に啓發しようといふ心がかかる、健康で活動的で思索的な公民に將來なるやう、兒童を教育しなくてはならぬ。我々は小學校を男女共學を基礎として經營するやう勤める。

六ヶ年の小學校から先きは、中等學校の入學試験に落第したもの、または就職前にもつと教育を受けたいと思ふ生徒のために、更に一二年を加へてゐるので組織がやゝ複雑になつてゐる。小學校の次に來る現在の中等學校は、その次の同じ型の高等専門學校に入らうとする生徒の要求に應ずるためにできてゐる。

小學校の次の三ヶ年を、あらゆる男女生徒のために「下級中等學校」を創設して、基本的には同じ型のカリキュラムを全生徒に教へはするが、個人的な必要に応じて適當に修正できるやうにすることを我々は勧める。主要な目的は小學校の目的と同じやうなもので、人格の向上と、公民資格と團體生活とに重點を置くべきである。この學校には、職業面を探究してみるやうな機會を取り入れるべきである。我々は「下級中等學校」を三年間または満十六歳まで義務教育にするやうすゝめる。この「下級中等學校」は無月謝にすべきである。小學校の場合と同じやうに、この水準に於てもその有する原理は男女に適用できるものであるから、この學校は事情の許す限りなるべく早く男女共學にするのがよい。

「下級中等學校」の後に、無月謝で希望者はだれでも入學できる三年制の「上級中等學校」の開設を勧める。この學校でもまた男女共學にすれば財政上の節約ができ、男女の平等を確立する助けになるであらう。然し、教育の機會均等が保證される限り、過渡期中はこの水準において男女別々の學校を用ひても差しつかへない。これらの學校は、家事、農業、商業及び工業教育の課程のみならず、なほまた専門學校及び大學の入學準備になる學究的な課程も含むべきである。地方の狭少な地域では、これら全部の課程を一つの學校に集めるやう勧告する。都市や人口の密集した地域では課程によつては、別々の學校に集めた方がよいものもあらうが、しかし大體において、我々は包括的な「上級中等學校」制をとる。

この提案の意圖するところは、小學校の卒業者を受け入れる。課程によつて維持せられるすべての學校は、単一な制度に併合されて然るべきであらうといふことである。これらは小學校、高等科、中學校、高等女學校、職業學校、青年學校等をふくみ、更に師範學校豫科もふくみ、これらの學校が具備する分化した諸機能は、講習や補習等の施設

と共に、中等學校のカリキュラムの中に包括されるべきである。

「上級中等學校」の課程を修了すれば、實力ある卒業者には、師範學校、専門學校及び大學豫科入學の資格を與へるべきである。

適當な段階において、身心の發育不良な兒童に注意しなくてはならぬ。目の見えぬ者や耳の聞えぬ者のために、また正規の學校では十分にその必要を満し得ぬ非常に不利な條件を持つた兒童のために、別個の學級または學校を設けなくてはならない。生徒の就學は、正規の義務教育令によつて取締るべきである。

兒童の成長發達の確實な原則から見、學校施設を更に年少の兒童まで及ぼすことの賢明なことが分る。正規の學校制度に必要な改革が行はれ、適當な經費が支給される時が來たら、育兒場や幼稚園をもつと多く設けて、これを小學校内に組入れるやう勧める。

日本に民主主義的教育制度を建設しようとする努力の究極の成否は、國民大衆がこの計畫を理解し受諾するかどうかによつて定まるのである。高遠なる決意も、公衆の支持といふ基礎がなければ崩れ去る。故に、都道府縣及び地方の學校當局は、本報告書の別項に記された、公立の成人教育計畫を進めるやう勧告する。

官公立學校のために定めた標準に達してゐる私立學校には、認可を與へるべきである。公私立學校間の生徒の轉學は、生徒に損失または不便を與へずに行ふべきである。認可を與へるべきである。公私立學校間の生徒の轉學は、教師には他の公民のもつ一切の特權と機會とを與へるべきである任務を立派に果すには、教師は、思想と言論と行動をもたなくてはならぬ。また彼等は地位の保證と、相當な給料とをもたなくてはならぬ。

青少年の最高の利益と教師自身の福利増進を達成するために、教師は地方的、都道府縣的、及び全國的夫々の水準

三
において、自發的な協會を組織すべきである。教師の協會は率先勇敢に行動し、また他團體と密接に協力する自由を有すべきである。

少くとも利己的に利用される危険が減るだらうと思はれる、日本の學校制度の一種の地方分権を實現するために、ある改革を實施する目的をもつて、學校令を準備し採用するやう我々は提案する。その改革についてこれから論じよう。

文部省の権限

文部省は、日本の精神界を支配した人々の、權力の中心であつた。從來さうなつてゐたやうに、この官廳の權力は悪用されないとも限らないから、これを防ぐために、我々はその行政的管理權の削減を提案する。このことはカリキュラム、教授法、教材及び人事に關する多くの現存の管理權を、都道府縣及び地方的學校行政單位に、移管せらるべきことを意味する。

從來は、視學官制度によつて學校の統制が強制されてゐた。この制度は廢止すべきである。その代りに、統治的または行政的權力をもたぬ感激と指導を供與する、相談役と有能なる専門的助言者の制度を設けなくてはならぬ。

文部省の機能の内務省から絶縁すべきである。

初等及び中等教育に關する文部省の権限及び職務の中、我々は左の事を提議する。

- 一、教育の各分野、即ちカリキュラム、教授法、教材、校舍建築維持並に經營、教科書、財務記録、會計並に報告等における、専門的諮問制度の創設。

二、校内の軍事的又は極端な國家主義的活動に關する拒否權の行使この権限を法律に明記しかつこれを限定すること。

三、教師檢定の客觀的標準の制定に對して指導權を與へること。

四、學校に對する客觀的標準の設定。

五、政府から支給される教育基金の分配、たゞしかゝる分配は法律に明記されてゐる客觀的な定則によること。

都道府縣廳の権限

公立の初等及び中等教育の管理に對する責任は都道府縣及び地方的下部行政區畫（即ち市町村等）に委せられるべきである。

各都道府縣に教育委員會または機關が設立され、そしてそれは政治的に獨立し、一般民衆の投票の結果選出された代議的公民によつて構成されるやう勸告する。この機關は法令に從つてその都道府縣内の公立諸學校を全般的に監督するものとする。

都道府縣の機關は都道府縣の教育の指導者を任命すべきで、その人は教育の領域内で訓練と經驗を得たものでなくてはならない。彼の権限及び任務の中、次のものを我々は提言する。

- 一、その都道府縣の公立學校に對する最低標準の制定と保持。
- 二、客觀的標準による教師の免許。
- 三、地方の學校當局の推舉する教科書の認可。（教科書を選ぶには教師に大きな責任が與へられるべきである）

四、教師が現職のまま、修業しうる設備及び教授上の技術改善のための専門的集會の開催。

五、文部省の定めた標準に従つて、初等及び中等程度の學校及びその他の教育機關の認定または認可。

地方的下部行政區畫（市町村）の權限

學校が強力な民主政策の有効な手段となるべきものならば、それは國民にとつて親密なものでなくてはならぬ。教師や、學校長や、地方教育課長などは、上位の教育關係官吏の支配や制御を受けないことが大切である。なほ、あらゆる程度の學校の學校行政を直接受持つてゐる教育者は、その奉仕する民衆に對して責任を持つこともまた大切である。

各都市またはその他の地方的下部行政區畫においては、國民の選んだ一般人によつて教育機關が構成されて、この機關が法令に従つて、その地方にあるすべての公立の初等及び中等學校の管理を司るやう我々は勤める。この機關は専門的に資格のある教育者を、その都市またはその他の地方的下部行政區畫の學校制度の部長として任命すべきである。

地方學校制度の部長の任務中、次のものを我々は提言する。

- 一、一般人によつて構成される、この教育機關の行政官としての職務を果すこと。
- 二、法律に準據しかつ地方教育機關の採用した一般方針の下において、その都市の教育計畫案の處理。
- 三、地方教育機關に對して彼の監督下にある學校の教師の任命に對する推舉。
- 四、學校における教授の監督と學科課程の進展及び教材の選擇について校長や教師に對する援助。

- 五、その地域の教育上必要とされるもの、調査、學校建造物の適正な位置の選定及びその建造の監督。
- 六、兒童の權利を増進し教育上の計畫を改善するために、両親と教師との團體組織の助成。

財政上の支援

學校の財政上の支援は、その學校の屬する社會の一般的な經濟的水準に依存するであらう。

民主主義的な教育計畫はその性質上公の基金の多額な經費を表示する。これは廣範圍に及ぶ教育上の機會、幅の廣いカリキュラム、優れた監督、更に十分に訓練された教師、少人數より成る學校、及び優秀なる備品を必要とするからである。時を経るに従つて、これらの施設と援助とは、今度は立派に教育された公民達の、改善された能力と生産力とを通じて、公の富に確實な寄與をなすものである。教育は、かく考へれば、永續的自給の投票となる。日本の人々は比較的廣範圍にわたつた學校及び文化施設を進んで支持しようとする意向を既に示してゐる。彼等は個人的に大きな犠牲をはらつても、あらゆる程度の更に優秀な學校を設ける方法を見出すであらうと思ふ。

教師の給料

あらゆる部面において、教師及びその他の教育關係職員給料は、彼等の仕事の重大性とつりあひの取れない標準以下のものである。彼等の學校の仕事以外に内職をするか、または家族手當をもらふかして、この給料の補ひをしなくては、それ相應な生活の基準を維持することができない。國家及び都道府縣の教育指導者達が、すべての教育關係職員の合理的な最低給料表を作成して、それに應じて適正な法律が制定せられるやう勧告する。

供給と備品

民主主義的な學校制度を可能ならしめるためには、適當な給料を支給し、教師及びその他の教育關係職員の十分な數を持ち、更に教科書及び参考書、圖書館の書物及びその他の教授上の備品を十分に供給しなくてはならぬ。教授上、視覚並に聽覺の助けを借りることは從來よりもつと廣範圍に利用せらるべきである。(譯者註。フィルムやラヂオ、蓄音機の利用を意味する。)

學校建造物

日本における學校設備の状態は、大きな財政上の問題となることは明かである、數多くの學校建造物が破壊された最近の戰時状態は學校の維持を忽にせざるを得なかつた。新しい建造物は設備に際して照明、暖房、通風及び電氣裝置等において近代的設備をふくんでゐなくてはならぬ。

一般的支援

教育當局及び稅務當局は、協力して、學校の十分な財政上の支援に對する計畫を定めるべきである。この計畫は國家、都道府縣及び地方的下部行政區畫において夫々なされるべき相對的な補助額を明示すべきである。一般的福利のために、相等の教育上の機會をあらゆる兒童、青年並に成人に與へることが政府の目的でなくてはならぬ。この原則を實現するために財政上の支援を均等にする計畫が立てられるべきである。

十分な教育上の計畫を支持する上において、地方及び都道府縣の能力には明かに大なる差違がある。都道府縣における學校補助金の分配にもこの均等化の原則が適用されなくてはならぬ。學校の經費の合理的な比率は、地方的下部行政區畫において設定せらるべきである。

第四章 教授法と教師養成教育

主題に關聯せる諸問題

教授法及び教師養成教育の改革は、全般的な教育の改造と同様な目的を持つてゐる。舊制度の影響が授業の實際において明白に示されてゐるのを我々は見た。教師達は何を教へるべきかまた如何に教へるべきかを厳密に命ぜられてゐるのである。授業は全體的に見て、形式的で極りきつた型のものであつた。指令された内容と形式から少しも外れないやうに、視學官達は印刷せられた教授要旨が嚴重に守られてゐるのを見届ける義務を負はされてゐた。このやうな制度は狂人拘束服の中に授業を押しこめる効果を持つてゐる。

かやうな状態は良識ある日本人によつて厳しく批判されてゐる。然しながら、あらゆる不利な條件の下にあるにもかゝはらず、その授業振りに非常に美事な柔軟性を持たせ得た教師達が少なからずあつた。獨力でまた集團を作つて日本の教育の指導者達は活動力をうばひと束縛から脱れ出ようと努力してゐる。これらの先導者達に榮譽あれ！そこで十分な生徒の發達をもたらさしうる點で、一般に優秀なものと認められてゐる授業の實際を二三簡單に述べてみよう。さうすることによつて日本の學校に缺けてゐるそれらの諸性質を更に強調、否誇張さへすることができらるであらう。

何人といへども日本の教師達に向つて如何にして記憶の練習を指導するかとか、手先の熟練を發達させるかを教へ

る必要はない。彼等はこの技術には熟練してゐる。この種の授業の價値を低く見ることは當を得てゐない。社會的なまた道徳的な問題を取扱ふ場合に、その問題解決への着手や判斷に際して、それが好奇心や獨創性の發達をさまたげる時においてのみ、それは悪いのである。

優れた授業の特徴

優れた授業の實施とは、所期の目的を最も效果的に達成するものである。その目的が民主主義的なものであるならば、民主主義的な手續の賢明な使用が示される。然しそれらの手續が用ひられても、時間を空費して生徒の習得するところが極めて少い結果に終る場合、または生徒の發達の與へられた段階において必要以上に多くの自由が許される場合は、何かと誤つてゐたのである。學校の計畫案のある部分は、直接教授の方法及學習状態の教師による管理をふくむべきである。熟達した立派に教育された教師は、彼の技術の一部として、採るべき方法を判斷することができらるであらう。

一般に言つて望ましい教育は、人員の少い學級、設備の整つた實驗室、圖書室、體操場、運動場及び特別教室などの助けを借りた場合、順調に運ばれるであらう。ラヂオ、蓄音機、映寫機などはしばしば有用である。然し豊富な設備をもつた學校が必ずしも優秀な學校とは限らない、そして貧しい設備をもつたものが立派な教育上の經驗をもたらすかも知れない。

若しも教師が十分な自由を與へられるならば、生徒の學習を豊かにするために、學校の外部の多くの施設を利用するであらう。農場、工場、事務所、圖書館、博物館及び病院等は教育上の好機會を供給する。學級が餘り大きすぎる

やうな場合には、民主主義的な方法に熟練してゐる教師は生徒の指導力を求めて、生徒の座長の下にその學級を一層小さな群に分割することが出来る。

民主主義的教育は、生徒の個人差を認識すること、個人の可能力の發達に力點をおくこと、及び社會的な集團に氣持よく效果的に参加することを究極の目的とすること等によつて、特色付けられる。

個人差

平等とは畫一といふ單調な悪い平等の意味ではない。生徒の間にある宗教、人種及び社會上の身分等のやうな相違は、民主主義的な學校では當然無視されていゝものである。成人層の中にはたとへどんな偏見があらうとも、平等な教育上の機會がすべての者に與へられるべきである。然し、民主主義的な學校は、試験及びその他の方法によつて、生徒の智能程度を發見して、それに教案を適合させようとする。それは生徒がそれに應じ得ないやうなことを要求しないやうにし、更に夫々異つた智能を有する生徒に教育的經驗を與へるために、その教材提供の範圍を擴充する。同様に、それは種々異つた興味を有する生徒達に對して、例へば、田園の地域から來る者と都市の區域から來る者とに對してその教案を調整するやうに努める。

兩性間の智能上の差異は、少年少女が同じ教室内で教育されてゐるところでは事實上存在しないことが知れる。發育成長を共にするといふ。經驗は自然でもありまた有益でもあると信ぜられる。スポーツや體育のやうな活動や、また希望によつては、手先で行ふ活動などに對して學校内で兩者を分離させることは、それが慣例となつてしまへば、面倒なことはほとんど何も起らない。

個人の發達

勝手に決めた標準に強ひて従はせようとすることは、最も望ましい型の發達をもたらすものではないと思ふ。ある者にとつては效果的な方法でも他の者にとつてはそうではない。教師が語り生徒が聴き、そして彼等が話されたことを單に言ひ返すだけの空氣は、生徒の發達をうながす上に効果がない。生徒達が理性に照して、かつ可能な結果または實際の結果を以て解答を吟味しながら、質問を發したり、色々な原因を調べたり、その意見を集團の批判に供したりすることができない限りは、發意と獨創とはおさへられてしまふ。

社會への參加

民主主義的な態度は民主主義的な行動の經驗を通じて學ばねなくてはならぬ。形式張らぬ生徒對教師間の關係はそれに役立つのである。民主政治における集團生活へ參加するための訓練には、集團討論の過程や、指導者の選定や、指導者たることの實習や種々異つた意見を受けられる寛容な態度などを經驗する必要がある。

公民教育の授業の實施提案

上に述べた教授上の概念をもつとはつきりさせるために、實例を擧げて、採用できさうな明細な實施案を示さう。こゝに述べる實施案の全部とは言へぬまでも多くのものは、あちこちの日本の官公私立の學校經營において現在實行されてゐるものであつて、そしてその中のあるものは經驗的に實施されたが、一般に行はれてはゐない。

實例に選ばれた分野は日本において修身、時には「公民」と言はれてゐるもので、合衆國では「社會研究」の一部になつてゐるものである。それは政治學、經濟學、社會學及び倫理學をふくみ、學習者の成熟度に適應させてある。數種の宗教が倫理學の體系を提唱し、そしてこれらの體系は價值があるが、然しそれは相容れざる宗教的教義と結ばれてゐるから、國家は宗教上の教義を教へることを學校から除外するのが賢明である。然しながら、これはそれらの何れの教義をも拂ひて教へ込まうとしなければ、特に上級學校においては、種々な宗教の研究を除外するものと解釋される必要はない。

その年齢の程度に應じて、生徒達は地方（市町村）の産業や、地方、都道府縣及び政府の行政などについて學ばなくてはならぬ。初等及び中等學校においては、營業所、銀行、商店、警察並に消防署、及び官廳などを參觀すれば、うるどころが多いであらう。彼等は如何にして公私の事業が經營されてゐるかを學ぶであらう。彼等を元氣付けて質問を發したり、意見を發表したり、討論に加はつたりするやうにさせなくてはならぬ。雇主及び政府職員の責任雇人としてまた公民としての個人の共通の權利等が、詳説せられなくてはならぬ。これらの權利を擁護する手段並にそれを改善する方法について質問が發せられるべきである。フィルム・ストリップス（譯者註ゲン燈用のフィルム）や活動寫眞は普通の教授法を補つて、生徒達の身邊を遠くはなれた所までその知識をひろめることができる。

そのやうにして得た知識を活かすために、ある程度の教室の時間が學校の問題に當てられ得よう。學校の外觀を改めるとか、衛生状態を改善するとか、娯樂上の施設を發達せしめるとか、書籍や繪畫などを出品してもらふとか、學校の色々な會を計畫するとか、新入の生徒を學校に紹介するとか、特殊な興味によるクラブをつくるとかいふやうな問題を論議して解決する柔軟性ある委員會式のやり方で、單純な型の機構が組織されうる。學校によつては各學級

たは各集團から選舉された代表者達が學生評議會として役立つかも知れない。これは特に學生側の幹部としてその期限内で行動を取り、教授會に提案や推奨を行つてその考慮を求めらるであらう。

民主主義的な過程は解釋を誤られるかも知れないので、それを明かにしなくてはならぬ。傳統的な日本のしつけ方に對する他の文化の壓迫にともなつて、種々異つた集團の間に、また若い世代と古い世代との間に、數多くの争ひが確かに起るであらう。選拔された教師達の指導のもとに行はれる討論は、若い世代の人々を助けて、古いと新しいとを問はず、善いものを固守せしめることゝならう。

道徳的な行爲や倫理的な態度は、正規の學級時間に與へられる經驗以外に、學校の他の分野に於いて、例へば音樂團組織において養はれうる樂器が利用できる場合、合唱團、唱歌隊、合奏團、オーケストラ及びアンサンブルなどは、そこにふくまれる審美的價值に加ふるに、學生をしてその個人的な楽しみを望ましき社會的な目的と結び付け得させるであらう。同様に正式または略式の劇の演出や、演劇や人形芝居などは種々雑多な才能を必要とし、かつ夫々の才能はそれ相應に役立つものである。

なほその他に、グループ・ゲーム（集團遊戯）やチーム・スポーツ（團體競技）などは實際に身をもつて苦しみにたえながら、共同分擔の徳や、他人に對する尊敬を學び、また立派なスポーツマンシップ（競技者精神）の規定を學ぶ、絶好の機會を子供達に提供する。これらの態度が一般化されて人生の他の場合に應用されうるなら、單なる教訓的方法からは得られさうもない意義と内容が子供達に與へられる。

教師の再教育

日本の學校に現在勤めてゐる教師は、非常に重大な社會的意義をもつた複雑な仕事に直面してゐる。彼等は過去に起つたでき事を解釋しなくてはならぬと共に、新しい世代の者に對して、新しい日本に席を占めて心構へをさせなくてはならぬ。彼等は未だ十分習熟してゐない民主主義的な方法に従ふことを期待されてゐる。教師がその自ら認容した責任を果すべきはづのものならば、彼等は利用しうる限りのあらゆる援助を必要とする。

臨時再教育計畫

現在學校に在る教師に必要な援助と指導を與へるために、臨時の訓練計畫が必要である。このやうな計畫は直ちに着手せられ、しかも様々な方法で行はれるやう勧告する。推移には時を要するであらう、そこでこの臨時計畫案は二ケ年にわたつて計畫されるやう提案する。その期間内に、教師は一人残らず、教授へのこの新しい進路に關し、協議と訓練とを成しとげうる機會を得てしまつて居るべきである。

臨時再教育の方法として行ひうるものゝうち左の如き方法を提言する。

一、各學校内の教師の集會

あらゆる學校がその教師達の集會を開いて、その席上、問題や實際に行はれてゐること等を、校長に支配されずに自由に論議する必要がある。

二、普通の學校で教育顧問の指導下に行ふ、民主主義的起源を有する教育の實際活動。

何處でも實行しうるところで、新しい實際活動を始めるために、學校の教師や校長を助けるだけの資格のある經驗に富んだ教育者は、普通の學校を選んで、その職員や、親達や生徒達と協力しつゝ、その學校に適當な新しい方法

を發展させる援助をなすべきである。現實の學校においてかうしたことを實地に教示することは、教師達が計畫に參加することや、認容されるだらうと思はれる種々様々な實際活動を示すことによつて、必ずや他の學校を益することとなるであらう。

三、實地教示者の移動單位または巡回集團。

民主主義的な方法に熟達した、選拔された教師達が、地方の教師達を激勵しつゝ、彼等の疑問に解答をうる助けをなしつゝ、自治體から自治體へとチームを作り隊を作つて移動しうるであらう。かゝる集團は日本の様々な地域からの、また大きさを異にする自治體からの教師達で構成されるべきである。これらのチームを増加する何等かの計畫は臨時二ケ年の期間内にすべての學校に及びされるやうに手配されなくてはならぬ。チームは映畫及びその他の補助物を供給されるであらう。

四、都道府縣師範學校と關聯する實驗學校（附屬小學校のこと）の用途。

各師範學校と關聯する實驗學校は新しい有用な實際活動の模範を示すために急速に再修正されなくてはならぬ。これらの學校から教師達を轉任させて、その代りにもつと新しい方法を用ひうる能力の證明済みの教師達を置くことが必要であるかも知れない。

都道府縣師範學校がその實驗學校における實際の教育手段を修正した後、田園地域、村落、都市などの教師達によつて選出された教師の代表者達が、これらの實地教示の中心部に送られて研究すべきである。彼等はその學び得たところのものを他の教師達にわかち與へるだけの訓練を得て、彼等自身の自治體に歸つて行くであらう。

上に述べた案は臨時の計畫として提出されるものであつて、それと同時に、既に奉職中の教師を引き続き訓練するために別な方策が立てられなくてはならぬ。これらの計畫案は現職教育として述べよう。

自由主義を奉ずる日本人によつて、また全世界にわたる彼等の友人達によつて描き出される新しい日本は、原動的な、着々改善されてゆく學校制度を必要とするであらう。かやうな制度は彼等が奉職してゐる間はその専門的な訓練を怠らぬ教師を持たなくてはならぬ。停滞してゐる學校とは、その教師達が教職をとり始めると同時に、學習を止める學校であり、活動的な學校とは、その教師達が最初の準備を完成して、彼等の天職の完全なる義務に着手すると同時に、その専門的な研究の最も効果的な部分を開始する學校である。

現今の日本には、こみ合ひすぎた設備の貧弱な教室において、なほかつ彼等の仕事に光りと暖かみと快活さとを興へてゐる教師達がある。子供達に關するその認識と、その豊かな熟練とによつて、共働學習の劇に光彩をそへて、激烈とこれを活かしてゐる教師達がある。さうした種類の教授力を發展させるために、永續的な機會をあらゆる教師に與へるのが、現職教育目的である。

教師の現職訓練に對する二三の提案は左の通りである。

教師の集會

教師にとつて何より第一に教育上必要缺くべからざることとは、同僚と相會ひして互ひに助言と感激とを語り合ふ機

會を與へられるべきことである。各學校の職員會議はこの必要に應へるものではあるがそれはほんの手初めに過ぎない。村において、都市において、または都道府縣において、あらゆる型の學校のあらゆる教師達の、専門的な集會が助成されるべきである。中等學校の教諭も大學の教授も、小學校の教師と同じ天職に従ふものである。彼等は同職の同僚を助けうるだけでなく、また更に何故に日本小學校の授業が、往々にして他の學校のそれに優るかを、發見し得なくてはならぬ。

特殊な専門的關心を持った教師達のグループの集會もまた催されなくてはならぬ。特定の學科の教師や、ある種の學校の管理者や、學校改革のための團結することを望む教職關係者などは、當事者達の全員に深い興味をもたせる集會をまとめうるであらう。

文部省並に都道府縣及び都市の行政官廳が専門的な集會を助成して、必要な援助を與へるべきではあるが、しかし最も効果のある教師の集會は、通常教師自身で組織するものであることは確かである。教員組合をはじめ、あらゆる種類の教師の團體は、これを組織する自由を與へられなくてはならぬ。思想をひろめるために集會を催す権利は、如何なる原則にも優る決定的な民主主義的原則である。

講習會及び協議會

師範學校、高等師範學校、單科大學及び綜合大學の如き教師養成機關は、協議會、作業場、講習會及び休暇中の補習等のやうな、種々な言葉で呼ばれる特別な専門教育手段を現職に在る教師達に提供すべき義務を明かに持つてゐる。

教師のための出版物

専門的な出版物は、教師に關聯する諸問題の論議や、また實際に行つて成功した授業の報告等を、もつと廣く取り入れていゝであらう。専門的な読み物と關聯して、通信教授の講座ができていゝであらう。

教師相互の授業參觀

現職教育の最も効果的な面の一つは、また最も簡単なものゝ一つである。それは授業中の他の教師を參觀して、引續きそれに關聯した教育上の目的及び方法を論議することである。この種の勤務中の體驗は、教師各自に時間を與へて、同じ學校内の他の教師を參觀させることから始められる。更に全一日を費して手近にある他の學校を參觀したり、またもつと長い間遠いところへ參觀に出かけてゆくことも出きる。

監督官

教師の養成教育を繼續して進めるためには、優れた監督の大切なことを忘れてはならぬ。監督官とは一種の助教師であつて、何よりも先づ、彼の同僚たる教師を助けてその職務に熟達させることを第一の務めとするといふ原則を忠實に守ることが、恐らく近代の學校で効果をあげてゐる監督官のもつ目立つた特徴であらう。現在の日本の諸學校における視學官といふものゝ専門的な資格は、思ひ切つて高められるべきである。

視學官は教師達の指導者であり助力者であるとする、近代的な考へ方に合ふやうに、その職能の性格が變へられな

くてはならぬ。

旅行

近き將來において、日本の教師達が再び自由に旅行することができて、他の國々を視察したり他國に留學したりできるであらうといふこと、及び日本の教師達とすべての聯合國の教師達との交換が、取極められるかも知れぬといふことの希望を我々は敢て述べる。

教師の福利改善

再教育をふくめての、現職者教育に對するあらゆる計畫立案と關聯して、現在の教師の重すぎる負擔を軽くし、研究及び旅行のための賜暇を與へ、そして教師に對する十分なる給料の等級を定めることが確かに必要だと我々は考へる。

教師の養成教育についての概観

教師の養成教育を考察するに當つては、すべての型の教師をふくめることが必要である。小學校の教師、及びこれらの教師を養成する師範學校に對して、通常周到な注意が向けられる。中等學校、高等専門學校、師範學校そのもの、實業學校及び青年學校、單科大學及び綜合大學の教師達に對しても、同様な考慮がはらはれなくてはならない。特殊の準備教育は現在では主として小學校の教師達に與へられてをり、しかもこれらの中のせいゝ半数足らずのものが

彼等の仕事に對して特定の準備教育を受けてゐるに過ぎない。

そこで先づ第一に目立つことは、教師に對する養成教育が不十分であるといふことに歸着するやうである。即ちある種の型の教師達だけが特定の準備教育を受けるに過ぎず、しかもこの中の僅かに少數の者だけが彼等の仕事に對して特定の教育されてゐるにすぎないといふ點において、かく言ひうるのである。専門的な準備教育はあらゆる型の教師達に、そして各々の型に屬する全部の教師達に及ぼされるべきである。

學校長、監督官、都道府縣教育課長及び文部省内の職員等の如き他の職員は、教師達よりも更に少い準備を彼等の仕事に對して受けてゐる。

教師及びその他の教育關係職員を現職のままに教育するといふこの大切な仕事は、それを實施する用意が十分できてゐる何れの機關にも集中されてゐないのである。都道府縣の職員は必要な經驗または訓練を缺いてゐたし、文部省は他の仕事にたづさわつてゐた。現職者教育は文部省の活動を最近活氣付けたものは異つた教育の概念を以て實施されなくてはならぬ。更にまた、それはこの新しい概念を受け入れると共に、實際活動においてそれを實施しうる教育を施された個人達によつて、實施されなくてはならぬ。

第一に必要なことは、師範學校の仕事が、それを民主主義的教育の發達における代行者たらしめるやうに、正しく向け直されることである。この問題はこの報告書で更に詳細に扱はれるはづである。

師範學校の仕事の再編成は課された仕事の僅か半ばに過ぎない、何となればそれはこれらの學校で教育を受ける教師達にだけ影響を及ぼすのであらうから、すべての小學校の教師達が師範學校を通過するやうに要求されない限りはと言つてもそれは恐らく實行し難いことであると共に望ましからぬことであらうが、さもない限りは、彼等が通ふす

べての學校で教師達の養成教育に對する計畫を立てることが必要であらう。更にまた臨時の場合を除いては、教育機關において特定の準備教育を受けないでは、如何なる教師も免許を與へられないやうに、教師の教育に關しての資格を修正することが必要であらう。この意味は、例へば、系統的な準備教育を受けない限りは、中等學校、専門學校、實業學校または大學等を單に卒業しただけでは、如何なる教師も授業する許可を與へられるべきでない、といふことになる。これは急速に充たし兼ねるかも知れぬ要求ではあるが、然しそれは斷然確立されるべき目標なのである。

教師養成教育は三重になるべきである。先づ第一に、言語の熟達及び傳達の手段等の如き要素をふくむ全般的な所謂高等普通教育、文學及び美術の評價識別をふくむ現代文明の理解、近代の世界における科學の地位についてある程度の知識、近代國家の公民が直面する、經濟的並に政治的性質を有する特殊な問題についてある程度の理解。

第二に、教師養成教育は、彼が教へるべき教材についての特別な知識を要求する。初等教育の教師の場合には、この教授の領域は種々雑多である。更に上級の學校ではそれは順次専門化されるやうになる。

第三に、教師は彼の仕事の専門的な面の知識を持たなくてはならぬ。彼は比較教育史及びその社會學的根據について、またその中であつて彼が教へねばならぬその制度の組織について、及び實驗と兒童に關する經驗とを通して、最も効果的であると認められてゐる教授方法について、ある程度の知識を持つてゐなくてはならぬ。この専門的な仕事は、兒童と學校の觀察、及び監督下における教授をふくむべきである。この専門的準備教育は、その完全な形において、少くも初等及び中等學校のすべての教師達に及ぼされなくてはならぬ。現在ではかくの如き準備教育は僅かに小學校教師の一部に施されてゐるだけで、他の者には實際何も施されてゐない。この擴大された教師養成教育が實施されなくてはならぬとすると、教師を養成するあらゆる機關は、この仕事に参加して、十分用意の整つた教育學部また

は教授團の確立を目指して努力して行かなくてはならない。

將來の教師が適當な高等普通教育を受けてゐるものと假定して、教育學部または教授團はある一定の型の教育を施さなくてはならぬ。

第一に、かやうな教授團または教育學部は、十分能力のある學者達によつて、書き直されるべき教育の歴史に著作を提供しなくてはならぬ。(譯者註從來の日本の教育史はとられた思想で書かれてゐる故書き改められる必要がある)り、その際この教授團はその新しい歴史を書くべきである)これは國內及び海外の教育の發達に關して學生を啓發するであらう。

第二に、その教育課程は、學習過程、個人差、教育測定、及び特に、兒童の發育、並に兒童心理學等をふくめて、教育の心理學的基礎の徹底的な扱ひ方を取り入れなくてはならぬ。その扱ひ方は單に理論上の教授だけでなしに實驗と觀察とをふくむべきである。

第三に、學生は、その中で兒童が生活しその中で學校が仕事をしてゐる社會の研究へと、導かれなくてはならぬ。そのカリキュラムの二つの礎石は兒童と社會とである。そのカリキュラムは各人の關心事であつて、各人はそれに関與すべきである。

最後に、學生は課程で學んだ原理を、監督を受けながら、運用するといふ實際上の經驗を得なくてはならぬ。彼は兒童の活動や學校の運営手續を觀察すべき豊富な機會を必要とするであらう。

授業並にその他の教育上の仕事に對する準備教育を與へるのに、男女の間に差別を立てるべきでない兩者共あらゆる程度の學校で、教育上の仕事を擔當する資格を與へられるべきである。これをなすのに最も經濟的な方法は同一の

學校に男女を收容することであらう。

前述の論議は主として教師の準備教育を取扱つたのであるが、更に學校長、部課長及び政府職員等の如き他の教育關係職員のためにも、豫備教育が施されるべきである。教師に對するものと同様な基本的な準備教育以外に、彼等は教育理論、學校制度の組織、及びカリキュラムの原理等の授業を受けるであらう。この計畫は綜合大學で立てなくてはならぬ。彼等の職務につく前にこのやうな準備教育を受けてゐなかつた人々に對しては、現職のまゝ短縮された課程が與へられうるであらう。

師範學於における教師養成教育

師範學校卒業者の數は日本の公立學校の需要に應ずるには明かに不十分であつて、教師の僅か半數位のものが師範學校卒業者なのである。師範學校の教育計畫は、日本人にはおなじみの形式主義型と、日本の全教育界に共通の天降りの指令とをくり返してゐるだけで、暗記式の學習に重きを置いてゐる。平時において、高等師範學校入學志望者の僅かに十パーセント位。及び師範學校への入學志願者二十パーセント位の者が入學を許可された。許可についての主要な根據は入學試験であつた。

各師範學校は視察や教生授業を行ふために、附屬小學校または中等學校を持つてゐる。選ばれたこの種の學校で、我々は優秀な教授振りを眼のあたり見て大いに意を強うした。ある教師達は生徒側の参加を要する方法を用ひてゐた。しかし前に述べたやうな型の形式的な教授振りもまた、我々は澤山見た。

そこで、何處で行はれようと、師範學校を強化し、教師の養成教育を改善しうるやうな數種の主要なる勸告案を我

★はここに作成せんとするものである。

勸告案

師範學校は、もつと優れた専門的（教師としての）準備教育と、更に十分なる高等普通教育を施すやうに、一層高い基準で再組織されなくてはならぬ。即ちそれは教師を養成するための専門學校または單科大學となるべきものである。二ヶ年の終りに於いて小學校教師の免許を與へることが必要ではあらうが、中等學校または上級中等學校の上に更に全四ヶ年が、すべての師範學校の課程に充てられなくてはならぬ。後になつて、二ヶ年の卒業者に對しては、全四ヶ年の課程を終了するための機會が與へられるべきである。師範學校の學生の選拔は、中等學校から始めるべきであり、そして教育に向くやうな人柄と適質とを有する青年が、入學を志願するやう勧められなくてはならぬ。

最低基準の範圍内で、各師範學校の教授たちは、師範學校のカリキュラムを決定したり、また必要に応じて時折それを變更したりする自由を持たなくてはならぬ。これは、でまかせにやるのではなくて、利用し得べき手段を徹底的に研究して、十分な論議を盡した後に、行はれなくてはならぬ。師範學校は、免許及び授業に對する標準を保持する上に必要と思はれる場合を除いては、政府職員から特定の指令を受けずに、教育の理論と實際を發展させる自由を持つべきである。

そのカリキュラムは、將來教師たるべき者を一個の個人として、また公民として教育するやうにしなくてはならぬのであるから、自然科學、社會研究、人文科學、及び藝術などのやうな普通科目の面に重きを置く必要がある。兒童の研究は教師養成の準備教育中、特に重要なものでなくてはならぬ。カリキュラムには家庭と學校との關係の

研究を設けるべきである。到る處で見學、關與、及び教生實習に對してもつと多くの時間が與へられなくてはならぬ。各師範學校は、教師の再教育のために、講習、授業實演、會議、討論會、及びその他の手段を講ずべきである。なほまた、この重要缺くべからざる教師の地位を、専門的最高水準に保つために、師範學校教授たちの資格が高められるやうな方法を、綿密に研究することが必要であらう。同様に、物的施設、財政上の援護、及び行政上の管理等に關して、徹底的な調査の必要が指示される。

教師の養成教育に關係のある學校及び職員員の自發的な聯盟は、恐らく教育に従事するすべての者が深い關心を有する多くの問題を、明かにするための良い手段となることであらう。

單科大學及び綜合大學における教師並に教育關係職員の養成教育

教師としての専門的な準備教育がほとんど施されない單科大學において、相當多くの教師達がその教育を受けてゐる。教師の養成教育のための計畫は、その本質的な點で師範學校に對して推擧したものと同様なものを立てられなくてはならない。即ち、それは廣い範圍の普通教育、教へられるべき學科に必要な課程の適當な集中、教育の課程、及び監督下の授業實習等を備へるべきである。

高等の教育機關、特に綜合大學における教育關係の授業で變更を加へてもらいたいと思ふことは、綿密な研究を必要とすることである。綜合大學の代表者達、更に教師達、及びその他の教育關係職員達から成る委員會が任命されて既に彼等が占めてゐる他の分野におけると同様、この分野においても、彼等の當然占めるべき指導者的地位を、綜合大學が占めうるやうな方法を十分考究するやう勸告する。

そのやうな委員會が以下の諸點を考究するならば、必ず得るところがあらうと信ずる。即ち、教育又は學校管理にたづさはる學生達に對する準備教育案の擴張の件。兒童の發達、試験及び測定、教育の社會的根據、カリキュラム及び管理上の問題等の學習に一層重點を置く件。調査研究の件。教育上の諸問題を論議するための討論會の件。

第五章 成人教育

廣範圍の成人教育計畫は、その人的資源の最高度の發展を求めるとしては、必要缺くべからざるものである。軍部が國民大衆を支配したところから生じた悲惨な戦争のために、うち倒されて深い手傷を受けてゐる日本國民は、今や平和と世界協働とをその目的とする新しい戦ひに立ち向はうとしてゐる。

日本の知性的及び精神的資源を新しい方向に向け直すためには、できる限りの手段を講じて、人類の幸福に關係のある情報及び思想を廣く普及しなくてはならぬ。戦争といふ残忍な行爲を盛に行はしめた心理的環境が、探求といふ探照燈と眞理といふ修正劑との下に、さらし出されなくてはならぬ。

日本の國民の中には忠實な民主主義的背景を持つてゐる者が散り散りに残つてゐる。彼等は迫害と彈壓との悲劇的な經驗を通して、強權による統治の有害な効果をよく知つてゐる。彼等の中には成人教育の計畫を既に實行に移さうとしてゐる者がある。そのやうな人達の努力に對して、それに相應はしい援助と指導が與へられるならば、彼等は國民の運命を開拓するためのよい指導者になれるであらう。この集りを核心として、成人教育の機構は活動に入ることが出来るであらう。

それ故に、文部省における現在の成人教育の任務が活氣付けられ、民主化され、そして獨立部門としての威信が與へられるやう勸告する。その職員は指導力においても社會的經驗においても、十分に資格を備へた者でなくてはならぬ。日本の高等教育機關からもまた教育者達を誘致すべきである。教育、労働、産業、新聞及び青年層を代表する男

女から成る諮問委員會を設立して、都道府縣廳の水準にある同様の性格と機能とを有する委員會と協力することは、大いに有用であらう。

日本の大學、高等専門學校及び諸學校は、成人教育に推進を與へる内にひそむ大きな力なのである。學校における夜間部の設置、兩親對教師聯絡會の強化及び討論や集會に對する校舎の開放等、これらのものは成人教育に對して提供されうる便宜中の僅か二三に過ぎない。

公立圖書館

課税によつて支持された公立圖書館もまた、思想の普及に役立つ一つの機關である。それは階級や富や信條などの差別は全然認めない。それを使ひたいと思へば誰でも使ふことができる。更に各方面の論議されるべき問題がその書棚や閲覧室に表示されてゐる。餘暇の時間を有効に利用せんとする人々に取つては、圖書館は何時も歓迎してくれる文化的な慰安の源泉である。

幸なことには、日本の公立圖書館運動の基礎は既にできてゐる。都道府縣市立圖書館の相當數のものが全國に發達してゐるが、然しその大部分は一部または全部破壊されてしまつた。

しかし、圖書館の組織は、公立ではあつたが、無料ではなかつたといふことが想起されなくてはならぬ。其處では通常入館料を取られ、書物を借りるのに料金を取られた。

東京には大きな公立の中央圖書館が設置され、そしてできるだけ早く全市に分館が設けられるべきである。中央圖書館には東洋及び西洋の文化のあらゆる面を取扱つた書籍及び定期刊行物が用意されてゐて、市民は自由に何らの制

限を受けずに、それを使用するやう勧められなくてはならない。書物を調べたり借りたりするのに料金が課せられてはならぬ。經費は政府が負擔すべきである。

同様に各大都市もその圖書館及び分館を持つべきで、大都市を有するものを除いた各府縣もまた、すべての共同團體に寄與する圖書館組織を持つべきである。

大部分の成人は初等程度以上には教育を受けてゐないから、教育映畫は新しい圖書館組織を通して普及せらるべきである。やがて、言葉が改革され、ば、成人で讀書する者が一層多くなるから、書籍に對する要求が確かに増加するであらう。

我々は日本に對して一大公立圖書館制度の組織を心に畫いてゐるのであるが、それは次のやうな形を取るであらう。文部省は公立圖書館事務の監理者を置き、その職務は全國の圖書館を援助して、圖書目錄や書籍解題書を刊行したり、圖書館管理事項について助言を與へたりすることにならう。彼は政府の使用しうる資金の分配に對して責任を持つやうにならう。また彼は圖書館にとつての標準を確立するであらう。地方的にまたは都道府縣によつて任命された圖書館長が、各都市及び都道府縣に置かれるやうにならう。各圖書館は學校内に圖書集配分館を持ち、公共の建物内に圖書庫を持ち、不便な地域には特別な公益事業をするやうになるであらう。

言ふまでもなく、ここに述べた計畫案は中々經費のかゝるものであつて、一夜作りでできるものではない。前に論じた主なる公益事業も兼ねた實驗的な圖書館計畫が東京でできれば、順調な發足が始められえよう。それは一つの試験的な地盤として、一つの標本として役立つであらう。

日本の文學の缺點は兒童用書の籍が比較的少いことである。若しも最初の公立の新圖書館が兒童讀物の優れた蒐集

を行つたならば、兒童期教育に及すば究極の効果は測り知られぬ程大きなものとならう。

六六

博 物 館

公立の博物館は成人教育に對して更にもう一つの機會を提供する。科學及び産業博物館は更に日本の天然資源について、人々に必要な知識を與へることができらるであらう。

歴史博物館は、過去との連続において現在を理解する助けとなりうる。美術博物館は、普遍的に人の心にうつたへる人間のあこがれを理解するのに役立ちうる。

結 論

成人教育の全計畫案は學校、圖書館及び博物館を通してなされうる以上のものを要求する。一般の人々には講演、討論及び座談會における自由な談話の形式を廣く實地に見せてやる必要がある。集團またはチームを一般人民の間に派遣して、研究と討論とによつて、日本が現在直面してゐる問題を、一層充分に了解させるやうに彼等を指導することもできる。このやうな運動では、教師聯合會、労働組合、政治及び青年團體の援助等が考へられるであらう。

市民達の手に與へられた投票權は、その自由な行使を長い間さまたげられてゐたので、若しもそれが恩恵にならな
い場合には、かへつて危險物になりうるのである。餘りにも深く軍隊式統制を覚え込んでゐる青年達が、突然解放されたので、自由といふ新しい概念に近づくのには援助が必要なのである。自由の果實の分け前をもらふ特權は、公共の福利のためにつくすべき義務をおもふものであるといふことを、彼等は學ぶ必要がある。

校外教育の計畫を進めて行かうといふ意志と勇氣を持つ日本人に對しては、老若の別なく、前述の機關及びその他の合同機關は、時間と資力が許すにつれて發展して、新聞、ラヂオ、映畫等の廣大な機能をもつに至るやうな機會を絶えず提供するであらう。

第六章 高等教育

六八

大學はすべての現代教育制度の王座である。自由の社會では大學は平等の關心を以て三大任務を果すものである。第一に、智的自由の傳統をこの上もなく高價な寶として防護し、思想の自由を激勵し、探求の方法を完成し、知識の向上をうながし、科學及び學問を育成し、眞理への愛着を育み、そして社會への絶えざる光明の源として役立つものである。第二に、あらゆる時代やあらゆる民族中の思想と最善の希望とを知らしめることによつて、家庭や社會生活の向上において、産業や政治の一層有効にして人情味ある運営において、更に國際的理解及び親善の助長等の仕事において、指導的地位を占めうるやう、才能ある青年男女を準備するものである。第三に、大學は變轉しつゝあり、また現はれつゝある社會の必要に應じて常に敏感であるが故に、優秀なる青年男女を新舊兩様の職業に對して技術的に有能ならしめるやう訓練する。

日本の高等教育の過去における制限

日本における教育は、傳統的に島國的であると同時に孤立的な傾向になつてゐた。日本の國交は日本國民全體の自覺せる目的または目標といふよりは、もつと個々の學者、政治家または實業家の、言はば英國の非國教徒的精神を反映してゐた。學者の占める高度の學識の世界と、學識程度の不明な幾百萬の日本の民衆との間には、餘りにも廣い距離があつた。そして極めて難しい國語の複雑性はこの距離を更に深くしたのである。

科學界における日本の参加は、創造的または獨創的であるよりはむしろ多分に模倣的吸收的であつた。にもかゝらず、日本は獨自の研究に對しては、無制限に探究を許された多くの分野における科學者達の立派な寄與に見られる如く、たしかに隠れた天才を持つてゐる。

日本の大學制度は、如何なる國の高等教育計畫においても普通見られるやうな諸要素を基礎にしなくてはならぬ。そして才能ある青年を常に豊富に供給することが、その計畫の中の一のつであることは論をまたない。高等の學問へ進む權利のあることが、國民大衆にもまた高等教育を支配する行政機關にも、はつきりと認識されなくてはならぬ。何となれば少數者の特權と特殊の利益が、多數者のために開放されて、その限界が決め直されるのであるから。かうした認識によつてのみ、今日帝國大學卒業生に附與されてゐる優先的待遇も、こゝに修正されうるのである。

公私立學校

高等教育の目的と自由は、高い標準と廣い文化的目的とを以て、大學及び専門學校を維持するやうできる限り助長することによつてのみ達成されるのである。

自由に學び自由に發表する機會が、官公私立を問はずすべての優良な學校に回復されなくては、一般民衆の興味があらゆる文化から來る新しい思想や新しい方法に對して、正常に發展することができない。

高等教育における日本の保守主義は破壊される。世界の幸福と日本の福利のために、さうされるべきものと考へる。しかし聯合國は日本國民に、政治的干渉を離れて彼等自身の力で自らこれをなす機會をたゞ與へるに過ぎない。日本自身の手で經濟的及び文化的生活的精神的指導をなすに當つて、日本が最も頼りとすべきたゞ一つのものは

日本自身の高等教育機関において教育され訓練された男女である。

日本の大學及び高等専門學校はこの義務を果すためにどうしてもやらなくてはならぬ責任と、未だかつてない絶好の機会とを有してゐる。

高等教育の組織

普通教育はその通常の意味では、高等専門學校や大學豫科に入り、そこで更に三年間繼續して授業を受ける極く一部の者を除いては、中學校で終るものである。普通教育に近い教育が大學の文學部には行はれてゐるし、またそれよりもつと限定された形で高等學校及び専門學校程度の學校に存在してゐるけれど、これらの施設は、この程度の學校で行ふ普通教育にとつては、その必要を充たすのに非常に不十分である。

専門學校、高等學校及び大學の數を増加するだけでは、普通教育擴充に對する今日の要求を充たすことにはならぬであらう。この要求に應ずるためにはカリキュラムをもまた自由主義化する必要があるであらう。職業的及び技術的教案の中に、實行できる限り普通教育的科目をもつと自由に取入れるべきである。

ある政府機關がさういふ學校の創設を認可したり、必要な基準が保たれるやうに監督したりする責任をもつべきである。これがどんな機關であらうとも、それを構成するものは經驗のある信頼するに足る、しかも代表的教育者でなければならぬ。そして彼等が關係學校の自治權に干渉せぬやうに、十分注意してその任務を制限しなくてはならぬ。

高等教育を施す學校が開設を許可される前に、この責任ある監督機關は、その學校の目的、財源、豫定の教職員、

豫定の營造物並に物的設備及びかかる學校が特にその地方に設置されるべき必要ありや否や等について、納得させられなくてはならぬ。

これらの保護的制限以外は、學校はその自ら最善と考へられるやうな方法で、自己の目的を追求する自由を與へらるべきである。

標準の向上

日本において一般に、高等教育の質の向上を計るため、また大學の場合には、同じく研究の質的刺戟と改善のため、高等教育機關の協會が設立されるべきである。これが第一着手として、即ち右協會の創立準備委員の指名は、團體中の各種の學校をそれぞれ代表する者であつて、日本の教育界で尊敬されてゐる教育者達の委員會によつて行はなくてはならぬ。かゝる協會の一員となるためには、その學校は委員會によつて規定した明確なる要件を充たさなくてはならぬ。

これらの協會の中においては、例へば圖書館の施設を利用したりまた學部教授の交換をする場合に、適當なる官吏の指導の下に學校間にははめて密接な協力が必要である。教授と學生の交換はこれらの學校相互の間で取きめられるであらう。また恐らく外國の學校との間にも取きめられるに至るかも知れない。少くとも日本の學生や教授が外國の大學に聽講できるやうな計畫が立てられるべきである。

官公私立學校の地位

一部の私立學校における宗教教育を除いては、官公立の學校間に何等本質的な相違は存在してゐない。宗教は學問及び人生の重要な部分を成してゐる。現在の日本のこの再建時代においては、宗教は殊に重大な役割を持つてゐる。

官公立大學、高等専門學校を適當に維持經營するのに必要な資金は、國庫から支出されるやうである。しかし私立學校にとつてはそれは重大問題であつて、經營に必要な資金が將來十分に保證される見とほしがつかなければ、門戸を開放することができないのである。授業料から得られる資金以上に、ある種の經濟的支援が與へられなくてはならぬ。例へば個人とか個人の團體とか公の資金等から来る補助金がそれである。今日の危機に際して、もしも戦争中に受けた損失を回復するため、公共資金が使用されうべきものとすれば、これ等の資金は官公立や優良な私立學校を發展させるために、當然一様に割當てられるべきである。この事は前述の官公立學校を代表せる教育委員會の進言に従つて、文部省の手でなすべきである。高等教育を施す官公立學校に對しては、公認の寄附として使用できる凍結資金が、できる限り早く解かれることが望ましい。官公立學校への寄附が免税されるのと同程度に、私立學校への寄附もまた免税されるべきである。更に、この方法による學校への公共資金の寄附は、決して學校の自由をさまたげるものではない。

個人 の 地位 教 授 団

個々の教授の地位は、高等教育改善の如何なる提案の中においても、最も重要な要素である。彼の影響力は、社會

の二つのおくり物、即ち學問の自由と經濟的保證に依存する。

學問の自由とは、官公立の如何なる大學、高等専門學校の教授團でも、新しい知識を研究するためには、器械と同様に思想をも實驗的に供することを許された場合に存在するのである。大學教授を制約する障壁は、如何なる國においても容易に設けられるものであつて、戦争中は有害なものとなる。それ故に精神の復興は、教育と研究を實務とする日本の高等教育機關において、現在何よりも最も必要なことである。

學問の自由を維持する一つの確實な方法は、學問のことにおいては教授自身に權威を持たせることである。學問の自由はまた、教師や教授及び大學から成る全國の協會によつて支持されてゐる。それらの協會はすべての人々の幸福のために學者や科學者の権利を用ひることが、社會に對する責務であるといふ精神に基いてゐるのである。教育や研究の高い基準は、現職中の男女の教師によつて立てられるものであつて、法令によつて定められるものではない。

若しも高等教育の機關が自由に社會に奉仕する資格があるとすれば、それはまた同時に學問上他の監視を受ける必要はない。それ故學問の自由に經濟的壓迫を加へるやうな問題が起つた場合には、常に警戒の要がある。商賣と高等教育の目的は、丁度教會と國家の目的が異なるやうに明かに異つてゐる。そしてそれは常にさうなくてはならないのである。

現今、日本の如何なる大學高等専門學校の教授でも、その業績を認められること、生活の保障とについて個人的な苦境に立つてゐる。自分の収入と職務とは、つり合ひが取れてゐない、その結果彼は多分境遇に強ひられて、他の方面から収入を得ようといふ氣持になる。若しも彼が帝國大學の教授の地位にあるとすれば、彼の官等は究極において恩給を、そしてある種の世間的特權を生ずることになる。如何なる時代の變化があつても、それが退職金や恩給に悪

影響を及ぼさないことを希望する、そしてやがて私立の教育機関においても、同じやうな恩恵の與へられることを希望する。

大學及び高等専門學校の教授が官等から開放されることは、自治と志氣への一大躍進を意味するであらう。それはまた他の國々における同様の團體との好ましい關係への基礎を作り出すことにもなるであらう。

學生團體

學生にとつては他の種類の自由と責任とが必要である。日本の青年男女は、その能力に基いて、あらゆる程度の高等教育を受ける自由を持たなくてはならぬ。進路が開放されるに従ひ、入學許可及び認定の標準を高めることができる。この自由な競争なしには、日本は社會的並に知的責任に對して、人的資源を十分に開發することはできない。場合によつては、自己の資力では勉學できぬ有能な男女に對しては、適當な學校への入學が確實に保證されるやう、財政的援助が與へらるべきである。

優秀な學生達を援助すべきこの責務は、女性の權利に關して最近公表された主張によつて、著しく増大してゐる。この大膽な感心すべき處置は、原則においては男女同權の問題を解決した。今やその原則を行動によつて確立することが必要である。男女同權が事實において一般的に眞實なものとなるためには、少女がもつと幼少な折に少年のそれと同様な健全にして徹底的な教育を受けられるやう保證するやうな處置を講ずる必要がある。さうすれば準備教育の學校において訓練を受けるための優れた基礎を得て、それが最も良い大學への入學に對しても、男子と眞に同等の條件に女子をおくことになるであらう。

機會の多様性

一面高等教育の影響を通じて、豫想されるもう一つの變化は美術、文學及び宗教等における文化的復興である。この國においても、他國におけると同様、個人が得た新しい自由から發達する變化は、すべての日本文化の固有の形に創造的に影響を及ぼし、美術家及び著作家をして刺戟を海外に求めしめるであらう。この個人的表現の解放は、日本の無類にして多様な民藝に對する外國人の理解を一層廣めるであらう。更に學究的努力のすべての領域において、日本のなすべき新しい仕事がある。この歴史の書き直しと、その文學の解説とは高度の教養と識別力とに富む學者にとつての仕事である。

これらは可能性を見渡す時に擧げることのできる學識の所産の僅か二三の面に過ぎない。社會科學、自然科學及び人文科學は、同時に學者と科學者とに新しい將來の見込を提供する。すべてかうした方面のことは、大學が先頭に立つてやつてもらひたいと思ふ。また同様に、音楽においても繪畫、彫刻及び演劇等の藝術においても、大學はその推進機關となることができるであらう。

専門學校または大學はそれが一體として働く場合には、一つの共同團體となつて、その能力を伸すに必要な多種多様な經驗をその成員達に與へる。それがうまくゆく限りにおいて、それは社會的な組織の一つの標本となる。故に、日本の高等教育機關は、學生及び教授に住宅を給することや、學生の會合や諸活動を組織し直すことの可能性を研究すべきであるといふことになる。これらの卒業生が大學を出る時、彼等は社會生活の永續的な經驗を身につけてゆくであらう。

日本の高等教育機関のカリキュラムにおいては、既に述べたやうに、大概は普通教育を施す機会が餘りに少く、その専門化が餘りに早くまた餘りに狭すぎ、そして職業的色彩が餘りに強すぎるやうに思はれる。自由な思考をなすための一層多くの背景と、職業的訓練の基くべき一層優れた基礎とを與へるために更に廣大な人文學的態度を養成すべきである。この事は學生の將來の生活を豊かにし、そして彼の職業上の仕事、人間社會の全般の姿の中に、どんな工合に入つてゐるかを了解させるであらう。

普通教育は、學生がそれを満足な形において十分受け、それを何か特別の分離したものと考へることのないやうに各學生に決められた正規のカリキュラムの中に、統合されるべきであると思ふ。普通教育の外に、更に専門化の領域に關聯した學科目が、學生の専門化された研究課程の中に、現在よりもつと自由に取れ入れられるべきである。

學科目について言へば、國際間の交通及び理解のために、この時期において明かに外國語が重要であることは、ほとんど説くまでもないことである。外國文學の研究は望ましいことではあるが、話したり書いたりするための實際的な言葉の使用も、強調せられてよいであらう。

物理學及び生物學は、自然界の事象を明かにするものとして、それ自身のためのみならず、日本の復興に必要な技術及び職業にとつての本質的な根據としても、明らかに重要なものである。然しながら、教育においては、科學がもたらす結果よりは科學的な性格といふものが、國民の福利にとつて一層重要なものであるといふことは、現代の、世界共通の經驗からして一言警告に値することである。この性格は、證據の前には從順を必要とし、事實を蓄積すると

いふ困難な仕事に對しては忍耐を必要とし、更に發見を分け合つて、この内奥の科學精神から生ずる技術學上の成果を、一般の使用に供する上においては協調的な精神を必要とする。これは單なる技術學として考へられた科學からは縁遠いものであつて、眞理を求め正義を求める一層深い人間的必要に應へるものである。

自然科學の堅實な研究にとつて必要な、事實に基いた正確な思索は、知識の他の部門の研究においてもまた用ひられるべきである。

社會科學の領域においては、この客観性は特に望ましいものである。社會科學の仕事は戰時中、政府によつてゆがめられ、一部分は禁止されてゐた。それは今や、我々と志を同じくする日本人達が自覺してゐるやうに、自由な探究と思索の精神で復活されなくてはならぬ。日本の社會的及び經濟的問題だけではなく、更に世界歴史及び國際關係もまた研究されなくてはならぬ。

特に社會科學の領域において、日本は過去二十年間に失はれた多くのもの、埋合はせをする必要がある。

研究

我々は高等教育機關における研究の根本的な重要性について述べた。大學の最高義務は眞理の探究にあるのであるから、それはその教授や高學年の學生達による研究を、あらゆる可能な方法で刺戟しかつ援助すべきであることは言ふまでもない。研究施設はできるだけ速かに整へられるべきであつて、卓越せる興味と才能とを證示した高學年の學生のために、獎學金制度が設けられなくてはならぬ。

我々は公明正大な學者的研究は自由であるべきだと信するので、現在のところは必要と考へられて加へられてゐ

る、この自由に對する拘束が、世界狀勢の許す限り速かに取り去られるやう勸告するものである。科學の研究と發達とは、就職と生計の源を擴張するために目下必要なのである。日本はその新しい環境に自己を順應させて、手藝業、輕工業、及び一層多角的な農業並に商業經濟を發達させる一方、更に商品と勤勞との廣範圍な國際的交換を求めなくてはならない。そこで、技術學上及び經濟學上の研究の必要が指示されるのである。社會研究において、その探究は、日本の生活狀態の改善並に他國民との關係の改善に役立つであらう。

技術教育及び職業教育

生活標準改善のためすべての技術教育及び職業教育は、日本の經濟狀態の變化に應ずるやうに、再吟味と調整が加へられなくてはならない。

前記教育と同様の重要性を持つ他の一團の技術及び職業として、身體的及び社會的方面において人類の福利に關係を有するもの、例へば醫療看護及び社會事業等がある。

醫學教育に關しては特別に研究する必要がある。日本の醫學校中には程度の低いものがあるやうに見受けられる。有能な教授または適切な施設を缺く醫學校は、適當な最低標準に到達させるか、若くは廢校處分に付せられるべきものと思ふ。新しい計畫作成のために、一團の専門家に對して醫療、看護及び公衆衛生の全機構の研究を依頼するやう勸告する。その必要たるや切實なものがある。

諸大學の狀態が改善され、事情が許されるやうになつた時、特に注目し値する比較的新しい分野として我々は新聞雜誌業、勞務關係、及び學校管理に注意を向けたい。教職員の訓練に對して、従前より一層注意する必要があること

については、既述の通りである。

大學附屬の圖書館

あらゆる水準の高等教育において、研究及び個々の學生の進歩にとつて必要缺くべからざるものは圖書館である。

我々は、國內の資料を全學生に利用せしめるために、各大學がその所蔵する圖書の合併統合を實行し、單一の共通目錄の作製を考究すべきであると思ふ。これら大學の圖書目錄に各學會の所蔵目錄を合せて一つの共通親目錄を作製し、適當なる中央機關にこれを保管せしむべきであらう。かくして初めて、學者にとりその必要とする書籍の所在を知る上に測り知れぬ價值を有する全國圖書目錄作成の基礎を据えうるであらう。

國內各圖書館の書籍相互貸借制度を日本は創設し、かつ戦前行はれるやうな國際間の書籍交換制度も、できるだけ早く復活させるべきであらう。

我々は日本の各大學附屬圖書館が、圖書館協會を設置するのを有用と考へる。司書の訓練のためには、成るべく優良なる圖書館施設を有する大學に附屬せしめた圖書館學校を設置するのもまた良いであらう。

大學講座の公開

成人教育の一般的問題に關しては本報告の他の個所で取扱はれてゐる。然しながら我々は大學がこの方面に關し、從來より大なる責任を進んでとるやう勸告する。大學はその講座公開により、大學本科に正式入學の資格をもたない相當年配の聽講生に、刺戟と啓發を與へるのである。(我々が公開講座と稱するのは、學士豫定者ならざる聽講生

に對し、學内または學外において行はれる公開講義を指すのである。

この計畫は、大學をして從來よりも一層親しく國民と接觸せしめるに、特に與つて力があるであらう。

國際關係

わが教育使節團の主要目的は、日本をして國際社會に適するやうに整理し直させることを援助するにある。

大學及びその他の高等教育機關は、日本國民をして世界の他の國民の助けになる協力を行はしめる上に、指導的役割を果さなくてはならないのは明かである。

高等教育機關においては全學生に對して、日本史並に世界史、國際聯合及びその他國際諸關係に關する課程または講義を利用せしめうるやう我々は勸告する。

我々は外國事情及び國際關係を討論する目的のために、學生及び教授の自發による諸種の會の組織が一段と促進され、公開講座においてもこれらの問題に重點を置くであらうことを確信する。

若しも書籍及び定期刊行物（單に學術的のもののみならずまた一般向のものも）が、直接外國から日本に輸入できるやうになれば好都合であらう。これは我々が面接したすべての日本の教師及び學者達が、熱心に希望してゐることである。最近十年間に思想界及び學術界に起つてゐた事を知る機會を、與へられる必要があるといふ彼等の意志に、我々は同意する。彼等はまた自己の學說や發見を出版しかつ海外にそれを送りうるやうにならねばならない。かくて彼等は再び世界の學界の仲間入りをなし、眞理の探究と人類の福利のために、他の國々の學者に協力しうるに至るのである。

できる限り早い時期において、日本の學者、教師及その他の専門家に對して、夫々の専門分野において外國の學者の現に行ひつゝある研究を親しく研究調査しかつ觀察するため、同時に彼等との個人的接觸の機會をうるためにも、洋行する援助が與へらるゝことも必要である。日本の諸種の學會協會に對してもまた國際的學會の會合に代表者を送る上に援助が與へられて然るべきである。將來は、日本の教育使節團の他の諸國への訪問が獎勵される日も來ることであらう。

そのためには補助金の形式による財政的援助を與へることが必要とならう。米國の諸機關を通じ少しは寄附金も得られよう。しかし日本の公私諸機關よりの寄附金がその主要財源とならう。

日本の教育の民主化がはかどつて、他國民との關係が更新されるにつれ、國際聯合教育科學文化部がその勢力の増大を見せるであらうことに病問の餘地はない。我々は國際聯合が日本に對し激勵と援助を與へうるやうなることを希望する。國際聯合教育科學文化部は「同聯合加盟諸國の文化及び教育制度の獨立、純正及び効果的多様性」の保持を約束する一方加盟諸國相互間の認識理解を助け、かつ學術の進歩、及び人類の福利の向上のために、彼等の協力することを援助するものである。

我々は遠からず日本も國際聯合の一員に迎へられるに至るであらうことを確信する。

本報告の要旨

デューチ・デイ・ストダード博士を團長とする米國教育界代表二十七名より成る米國教育使節團は、本報告の作成に當り日本に三月の一ヶ月間滞在し、其間聯合國最高司令部民間情報教育部教育課の將校及び日本文部省の任命し

た日本側教育者委員、及び日本の學校及び各種職域の代表者とも協議をとげたのである。本報告は本使節團の各員の審議を基礎として作製し、こゝに聯合國最高司令官に提出する次第である。

本使節團は占領當初の禁止的指令、例へば帝國主義及び國家主義的神道を學校から根絶すべしと言ふが如きもの、必要は、十分認めるものではあるが、今回は積極的提案をなすことに主要な重點を置いたのである。

本使節團はかくすることにより、日本人が自らその文化中に、健全な教育制度再建に必要な諸條件を、樹立する援助をしようと努めた次第である。

日本の教育の目的及び内容

高度に中央集権化された教育制度は、假にそれが極端な國家主義と軍國主義の網の中に捕へられてゐないにしても強固な官僚政治にもなふ害悪を受けるおそれがある。教師各自が畫一化されることなく適當な指導の下に、夫々の職務を自由に發展させるためには、地方分権化が必要である。かくするとき教師は初めて、自由な日本國民を作りあげる上に、その役割を效しうるであらう。

この目的のためには、たゞ一冊の認定教科書や参考書では得られぬ廣い知識と、型通りの試験では試され得ぬ深い知識が得られなくてはならない。カリキュラムは單に認容された一體の知識だけではなく、學習者の肉體的及び精神的活動をも加へて構成されてゐるものである。それには個々の生徒の異なる學習體驗及び能力の相違が考慮されるのである。それ故にそれは教師をふくめた協力活動によつて作成され、生徒の經驗を活用しその獨創力を發揮させなくてはならないのである。

日本の教育では獨立した地位を占め、かつ従來は服従心の助長に向けられて來た修身は、今までとは異つた解釋が下され、自由の國民生活の各分野に行きわたるやうにしなければならぬ。平等をうながす禮儀作法、民主政治の協調精神、及び日常生活における理想的技術精神、これらは、皆廣義の修身である。これらは、民主的學校の各種の計畫及び諸活動の中に發展させ、かつ實行されなくてはならない。

地理及び歴史科の教科書は、神話は神話として認め、そうして従前より一層客觀的な見解が教科書や参考書の中に現はれるやう、書き直す必要があらう。初等中級學校に對しては地方的資料を従來より一層多く使用するやうにし、上級學校においては優秀なる研究を、種々の方法により助成しなくてはならない。

保健衛生教育及び體育の計畫は教育全計畫の基礎となるものである。身體検査、榮養及び公衆衛生についての教育、體育と娯樂厚生計畫を大學程度の學校にまで延長しまたできるだけ速かに諸設備を取替へるやう勸告する。

職業教育はあらゆる水準の學校において強調されるべきものである。よく訓練された職員の下に、各種の職業的經驗が要望せられ、同時に工藝及びその基礎たる技術及び理論に重實を置くべきである。技術工及び労働者の寄與に對しては、これを社會研究のプログラム中に組み入れ、かつ獨創性及び創造性を發揮する機會が與へるべきである。

國語の改革

國字の問題は教育實施上のあらゆる變革にとつて基本的なものである。國語の形式の如何なる變更も、國民の中から湧き出て來なければならぬのであるが、かやうな變更に對する刺戟の方は、如何なる方面から與へられても差し

つかへない。單に教育計畫のためのみならず、將來の日本の青年子弟の發展のためにも、國語改革の重大なる價值を認める人々に對して、激勵を與へて差しつかへないのである。

何かある形式のローマ字が一般に使用されるやう勸告される次第である。適當なる期間内に、國語に屬する総合的な計畫を發表する段取に到るやうに日本人學者、教育指導者、政治家より成る國語委員會が、早急に設置されるやう提案する次第である。この委員會は如何なる形式のローマ字を採用するかを決定する外、次の役目を果すことにならう。即ち

- (一) 過渡期における國語改革計畫の調整に對する責任をとること。
- (二) 新聞、雜誌、書籍、及びその他の文書を通じて、學校及び一般社會並に國民生活にローマ字を採用するための計畫を立てること。

- (三) 國語體の形式をより民主的にするための方策の研究。

かゝる委員會は行く行くは國語審議機關に發展する可能性があらう。

文字による簡潔にして能率的な傳達方法の必要は十分認められてゐるところで、この重大なる處置を講ずる機會は現在が最適で將來かゝる機會はなかくめぐつて來ないであらう。言語は交通路であつて、障壁であつてはならぬ。この交通路は國際間の相互の理解を増進するため、また知識及び思想を傳達するために、その國境を越えた海外へも開かれなくてはならぬ。

初等及中等學校の教育行政

教育の民主化の目的のために、學校管理を現在の如く中央集權的なものよりむしろ地方分權的なものにすべきであるといふ原則は、人の認めるところである。學校における勅語の朗讀、御眞影の奉拜等の式を擧げることには望ましくない。文部省は、本使節團の提案によれば、各種の學校に對し技術的援助及び専門的な助言を與へると云ふ重要な任務を負ふことになるが、地方の學校に對するその直接の支配力は、大いに減少することであらう。

市町村及び都道府縣の住民を廣く教育行政に參畫させ、學校に對する内務省地方官吏の管理行政を排除するため市町村及び都道府縣に一般投票により選出せる教育行政機關の創設を、我々は提案する次第である。かゝる機關には學校の認可、教員の免許狀附與、教科書の選定に關し相當の權限を附與されるであらう。現在にかゝる權限は全部中央の文部省ににぎられてゐる。

課税で維持し、男女共學制を採り、かつ授業料無徴收の學校における義務教育の引上げをなし、修業年限を九ヶ年に延長、換言すれば生徒が十六歳に達するまで教育を施す、年限延長改革案を我々は提案する。更に、生徒は、最初の六ヶ年は現在と同様小學校において、次の三ヶ年は、現在小學校の卒業兒童を入學資格とする各種の學校の合併改変によつて創設されるべき「初級中等學校」において、修學することを我々は提案する。これらの學校においては、全生徒に對し職業及び教育指導をふくむ一般的教育が施されるべきであり、かつ個々の生徒の能力の相違を考慮しうるやう、十分弾力性を持たせなくてはならない。更に三年間の「上級中等學校」も設置し、授業料は無徴收、行く行くは男女共學制を採り、初級中等學校よりの進學希望者全部に、種々の學習の機會が提供されるやうにすべきである。

初級と上級の中等學校が相伴つて、課税により維持されてゐる現在のこの程度の他の諸學校、即ち小學校高等科、

高等女學校、豫科、實業學校及び青年學校等の果しつゝある種々の職能を、繼續することにならう。上級中等學校の卒業は、更に上級の學校への入學條件とされるであらう。

本提案によれば、私立諸學校は、生徒が公私立を問はず相互に容易に轉校できるやうにするため、必要缺くべからざる最低標準に従ふことは當然期待されることであるが、それ以外は、完全な自由を保有することにならう。

教授法と教師養成教育

新しい教育の目的を達成するためには、つめこみ主義、畫一主義、及び忠孝のやうな上長への服従に重點を置く教授法は改められ、各自に思考の獨立、個性の發展、及び民主的公民としての權利と責任とを、助長するやうにすべきである。例へば、修身の教授は、口頭の教訓によるよりも、むしろ學校及び社會の實際の場合における經驗から得られる教訓によつて、行はれるべきである。

教師の再教育計畫は、過渡期における民主主義的教育方法の採用をうながすために、樹立せらるべきである。それがやがて教師の現職教育の一つに發展するやう計畫を立てるやう提案する。

師範學校は、必要とせらるゝ種類の教師を養成するやうに、改革されるべきである。師範學校は現在の中學校と同程度の上級中等學校の全課程を修了したるものだけに入學を許し、師範學校豫科の現制度は廢止すべきである。現在の高等師範學校とほとんど同等の水準において、再組織された師範學校は四年制となるべきである。この學校では一般教育が續けられ、未來の訓導や教諭に對して十分なる師範教育が授けられるであらう。

教員免許狀授與をなすその他の教師養成機關においては、公私問はず新師範學校と同程度の教師養成訓練が、十分

に行はなくてはならない、教育行政官及び監督官も、教師と同等の師範教育を受け、更にその與へられるべき任務に適合するやうな準備教育を受けなくてはならぬ。

大學及びその他の高等教育機關は、教師や教育關係官吏が更に進んだ研究をなしうるやうな施設を擴充すべきである。それらの學校では、研究の助成と教育指導の實を擧げるべきである。

成人教育

日本國民の直面する現下の危機において、成人教育は極めて重大な意義を有する。民主主義國家は、個々の國民に大なる責任を持たせるからである。

學校は成人教育の單なる一機關にすぎないものであるが、兩親と教師とが一體となつた活動により、また成人のための夜學や講座公開により、更に種々の社會活動に校舎を開放すること等によつて、成人教育は助長されるのである。一つの重要な成人教育機關は公益圖書館である。大都市には中央公立圖書館が多くその分館と共に、設置されるべきで、あらゆる都道府縣においても適當な圖書館施設の準備をなすべきである。この計畫を進めるには、文部省内に公立圖書館局長を任命するのがよい。科學、藝術及び産業博物館も、圖書館と相まつて教育目的に役立つであらう。

これに加ふるに、社會團體、専門團體、労働組合、政治團體等をふくむあらゆる種類の團體組織が、座談會及び討論會の方式を有効に利用するやう援助しなくてはならない。

これらの目的の達成を助長するために、文部省の現在の「成人教育」事務に活を入れかつその民主化を計らなくてはならぬ。

日本の自由主義思潮は、第一次世界大戦に續く數年の間に、主として大學専門學校教育を受けた男女によつて形成された。高等教育は今や再び自由思想や、果敢な探求、及び國民のための希望ある行動の、模範を示すべき機會に恵まれてゐる。これらの諸目的を果すために、高等教育は少數者の特權ではなく、多數者のための機會とならなくてはならぬ。

高等程度の學校における自由主義教育の機會を増大するためには、大學に進む豫科學校（高等學校）や専門學校のカリキュラムを相當程度自由主義化し、以て一般的専門教育をもつと廣範圍の人々が受けられるやうにすることが望ましいであらう。このことはあるひは大學における研究を、あるひはまた現在専門學校で與へられるやうな半職業的水準の専門的訓練を、彼等に受けさせることとなるが、しかしそれは、より廣範圍の文化的及び社會的重要性を持つ訓練によつて一層充實することとなるであらう。

専門學校の數を増加する他に、適當な計畫に基いて大學の増設が行はれるやう我々は提案する。高等教育機關の設置や、先に規定した諸要件の維持に關する監督には政府機關に責任を持たせるべきである。開校を許可する前に、申請せる高等教育機關の資格審査、及び上述の第一要件を満足させて居るか否かを確認する役目以外には、その政府機關は、高等教育機關に對する統制權を與へられるべきではない。その高等教育機關は、自らの最善と考へる方法でその目的を追求するために、あらゆる點において完全な自由を保有しなくてはならない。

高等教育機關における教授の經濟的及び學問的自由の確立は、また極めて重要であるこの目的達成のため、現在の

文官制度の廢止が勸告される次第である。

學生にとつて保證されるべき自由は、その才能に應じてあらゆる水準の高等な研究に進みうる自由である。有能な男女で學資の無いため研究を續けられぬ人々に、續いて研究ができるやう確實に保證してやるため、財政的援助が與へられなくてはならない。現在準備の出來てゐるすべての女子に對し、今直ちに高等教育への進學の自由が與へられなくてはならない。同時に女子の初等中等教育改善の處置もまた購ぜられなくてはならぬ。

圖書館、研究施設及び研究所の擴充を我々は勸告する。かかる機關は國家再建期及びその後においても、國民の福利に計り知れぬ重要な寄與をなしうるのである。醫療、學校行政、チャーターリズム、勞務關係及び一般國家行政の如き分野に對する専門教育の改善に對し特に注意を向ける必要がある。醫療及び公衆衛生問題の全般を研究する特別委員會の設置を我々は要望する。

H28X-32

